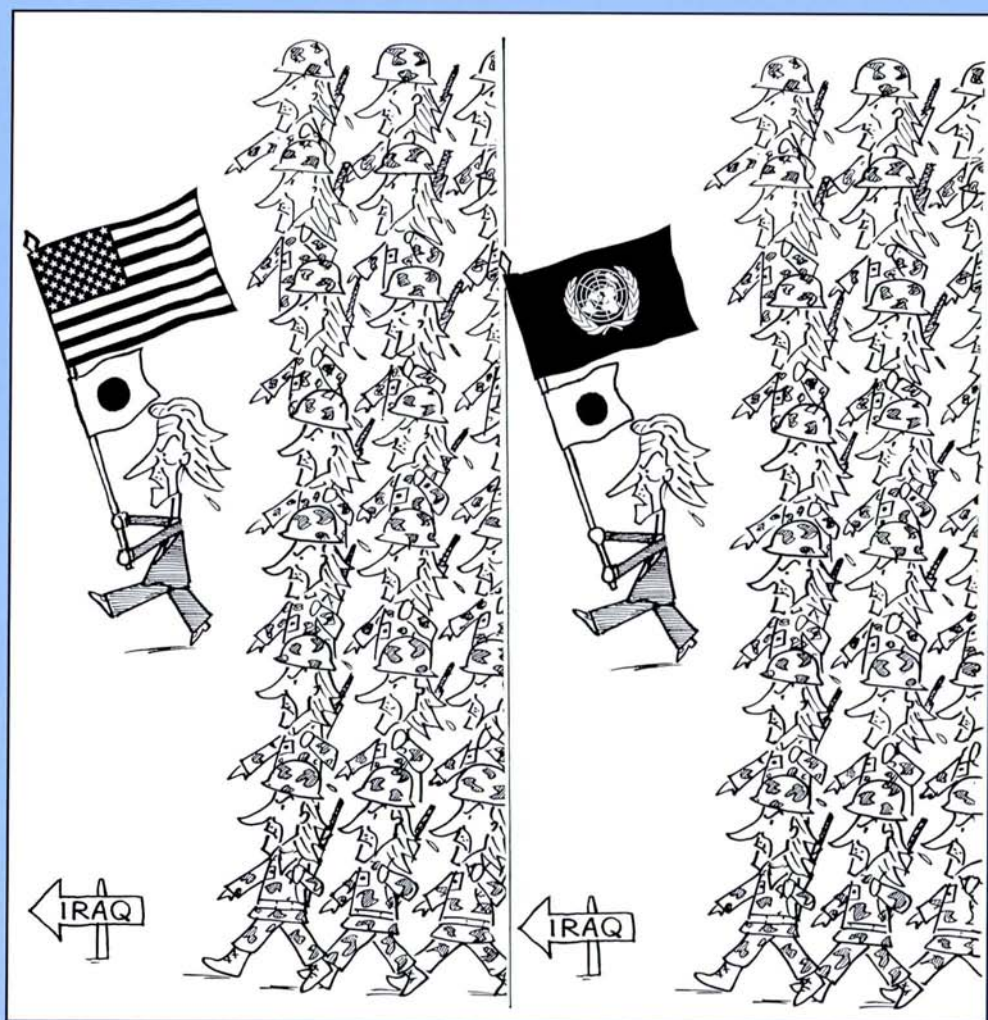


295号



新宿発

私の一票で 戦争を止める!



私の一票で戦争を止める

表紙 自衛隊 かかげる旗は 時により	橋本 勝
巻頭言 私の一票で 戦争を止める	編集部 1
守りぬく	岡部伊都子 2
沖縄から想う	桑江テル子 3
「良心的兵役拒否国日本」で あり続けたい	岡本三夫 8
「小泉を当選させた責任」のなかで	柳田節子 10
正義はひとつ。非戦のみ。	中山千夏 12
今日は6月15日。平和が崩れる音が聞こえる	小川みさ子 13
自衛隊の多国籍軍参加に反対し平和憲法を守りぬこう	山根幸夫 15
〈絶望〉を〈希望〉に変えよう	浦島悦子 17
無党派の一票	木村聖哉 19
並ぶ	田上悦子 20
日本国憲法こそ人類史上の宝物	古川ひろし 22
護憲の想い ——小さな提案	しまようこ 26
今度の選挙が「平和憲法」を護る分岐点	栗原君子 27
イラク戦争なんて存在しない	矢崎泰久 29
「流れていく先はどこ？」	岡田孝子 30
イラク民衆の未来を奪う劣化ウランという「虐待・拷問の放射能犯罪」	森瀧春子 32
大衆行動の厚みが憲法改悪を阻止する	柳田 真 34
「一票」こそが憲法を護る第一歩	小俣光子 36
各政党の女性政策責任者に聞く	あごら編集部 38
参議院議員選挙にあたっての各政党からの回答	国際婦人年連絡会 50
〈連載〉笑って怒って 2	橋本 勝 59
参議院選に立つ〈あごらメイト〉糸数けい子・福島みずほ・山内恵子さん	60
〈イラク派兵に反対し憲法を生かす候補を共同で当選させる懇談会〉	石河康国 64
めじゃーなりすとのめ 内なるマイノリティのために	森澤真理 72
語りかけたいあなたへ 61 雨	大里知子 74
沖縄から 沖縄の中の女性差別と闘う(人権を考えるウナイの会)	成定洋子 78
■読書室 『「物語 日本国憲法第九条」戦争と軍隊のない世界へ』	76
■TOPICS 政府、多国籍軍参加を決定／問題噴出の年金騒動 ほか	81
■会と催し 若さにあふれた憲法フェスティバル ほか	87
■あごらのあごら【行脚しつつ祈りつつ 寺沢潤世】【いま 思う】ほか	94
■目次で振り返る『あごら』30年 201号～206号	108

私の一票で 戦争を止める



イラク。あの残酷な、無意味な戦争は止められるだろうか。

衆・参両院とも、与党が圧倒的多数。その力の支配の下で、紛糾した〈年金法の改訂〉は、質問予定者の質問さえ切り捨てられて、深夜可決・成立。

小泉首相は、閣議も経ず、米英指揮下の〈多国籍軍への合流〉を申し出た。

いまだ多発する殺傷事件は、このニッポンがどんなに病んでいるかを、示し続けている。

流れを変えるためには、まず参議院で「戦争を止める」議員を過半数にすること以外にない。とはいえ、それは、夢のまた夢としか見えない……。

万を超える民衆の〈イラク派兵反対デモ〉は、数次にわたって大きなうねりとなっても、政府はもとより、ジャーナリズムすら一顧だにしなかった。

しかし、私たち自身にも責任があるのではないだろうか。

選挙は民衆が政治を変えるまたとないチャンス。選挙の度に、「どうせ……」と思い続けてきた私たち自身の怠りが、今日の不幸を生んでいるのではないだろうか。

七月十一日。もしも、「戦争阻止の一票」を怠ったら、〈9・11後のアメリカ〉になる……。ピンチはチャンス。「ダメだ」「どうせ……」は繰り返すまい。

7・11、日本発。新しい流れを生み出そう。

そのとき日本史のなかで、この日は、7・11として後世に記憶される日になるかもしれない。

私の、あなたの一票が、ニッポンを変える。

世界を変える。

必ず、きつと。

守りぬく

四方八方

世界の人類愛を

守るためにも、

基本としての

平和憲法を

守りぬく決意です。

命ある限り、

反戦平和を

貫きましよう。

岡部 伊都子

(京都市 随筆家)

沖縄から想う

桑江テル子

いとい九条よ

おまえは世界の宝、日本の誇りだ

だが、いつの間にか政治屋どもによつて

ズタズタにされ、整形されて

妖怪じみた姿にされてしまった

生れた頃は世界中の人々がおまえを仰ぎ見たものだ

「おお 人類の英知の結晶」

それから半世紀余り、傷つきながらも

日本の平和を守ってきた

だが、おまえのりりしい姿が気にいらぬ

政治屋どもは

少しずつおまえを傷つけ、心を踏みにじり

そしてついに

彼らはおまえをしめ殺そうとしているのだ

なんということだ。そんなことさせてなるものか
しっかりするんだ九条よ

私たちもおまえを守り 元の姿を取り戻すまで
全力で頑張るから しっかりふんばるんだ

そしてすっかり元気になったら

世界の人々に とりわけ子供たちに

そしてあの政治屋どもに

すてきなほほ笑みをおくるんだ (二〇〇四年六月 常光)

冒頭に引用させてもらったのは、連れあいの桑江常光が怒りを込めて書きなぐったやさしい詩です。彼独特の「ほほ笑み」で、世界へ、すべての人々と共生したいとのメッセージになっていると思います。

（あごろ）の斎藤さんから、沖縄からぜひ声を、との電話を頂き、「糸数けい子参院選、とりくみ真つただ中、街頭に出てまっ黒に日焼けし、疲れているのに」「辺野古に最新鋭の米軍飛行場を作らせない座り込みで、多忙なのに……」などと悲鳴をあげました。

沖縄で生まれた〈憲法九条―世界へ未来へ沖縄連絡会〉へも、何とか原稿を『あごろ』に寄せてもらいたいと、急ぎよ連絡をとりましたが、みーんな無理でした。とうとう、推敲の間もないまま、私の乏しい経験・知識ではありますが、この稿を送らせて頂きます。

一、沖縄の人びとが、日本復帰を求めたのは、「平和憲法の下へ、二度と戦争はしません、武器は持ちませんと誓った国へ」帰りたいからです。再び戦を構える日本にはありません。

太平洋戦争十五年戦争は、沖縄の当時の人口の約三分の一に当たる二〇万人の命を奪いました。一家から犠牲者が出ない例はなく、四人に一人が死にました。防空壕や先祖の墓に隠れていた人びとが、軍命令によつて追い出され、砲弾の雨にさらされました。足手まといになるとの理由で身体の不自由な人は放置され、赤ちゃんはちっ息死させられ、沖縄方言を使う人はスパイ視され、日本の友軍にざん殺されました。……沖縄の実相を語る紙面はありませんのでやめますが、天皇を頂点とする日本の軍国主義、全体主義の中で、差別と抑圧に苦しめられたうえ、ついに捨て石作戦の島となった沖縄。「沖縄人もすばらしい日本人ですよ」と主張したために、集団で死を選んだ人びと。教育による愛国心は徹底されていました。

私は沖縄戦の教訓に次の三つを掲げます。

- ①軍隊は住民を守るものではない。
- ②司令部や基地・軍隊に近いほど危険である。
- ③教育の力はおそろしい。

「戦争をおこすのは たしかに人間です。

しかし それ以上に

戦争を許さない努力のできるのも

私たち 人間ではないでしょうか。」

だから私は、軍隊と愛国心教育を拒否します。

二．日本が攻撃を受けたらどうする？ という議論に、私たちは胆をすえて立ち向かっていきたい。ひるんではいけないと思う。

小泉総理は「備えあれば憂いなし」と言いましたが、沖縄・琉球の歴史に学ぶならば、それは間違っています。軍備を増強し、兵隊を養うなど軍事費がふくれ上がる時代は、必ず子どもらの教育やお年寄の福祉はどんどん軽んじられ削られていきます。安心して暮らす権利が奪われ、憂いばかりになります。誰が何のために攻めてきますでしょうか？ もしあるとすれば、それは、米国追従の軍事主義だからです。

小泉自公政権の日米同盟を、もっと多国との同盟に変えることが大切です。そして、信頼しあう関係、友情・友好の外交を進めることこそ、トラブルを未然に防ぐことにつながります。それが日本国憲法の精神であり、沖縄の「いちゃりば兄弟」の精神です。そして九条の精神です。

目には目を、テロ対策で戦争をする、対テロだから日本も軍備を——ということでは、暴力の連鎖を断つことはできません。

小泉さんは、沖縄の人びとの暮らしを知らなすぎます。たった〇・六％の領土の、狭い沖縄に、在日米軍基地の七五％を押しつけて六〇年！ 沖縄では、軍人・軍属による事件・事故・人権侵害が起こり続け、「土地を返せ」「地位協定を見直せ」と、どんなに強く要求しても聞く耳をもたない。そればかりか、老朽化した普天間飛行場を返還するかわりに、辺野古の海上に、最新鋭の近代的な、より広い飛行場を、思いやり予算で作ろうとしている。沖縄の不安と負担は増すばかりです。

日本の産業・経済が今日まで発展して来たのは、この五九年間、軍事費を抑え、とりあえず戦争をしなかったからです。

論憲とか創憲とか、さまざまありますが、法律を整備することで解決できることがたくさんあるはずです。どんな理由があっても「戦争放棄」の誓いを揺るがしてはなりません。「陸海空その他の戦力不保持」「国の交戦権は認めない」——認めるか認めないかの主人公は、私たち国民です。

「小泉ノー」というレッドカードをつきつけるべき時です。

最後に、私が大好きな琉球民謡、飲むほどに酔うほどに私が歌う反戦平和の歌、「艦砲ぬ喰え残さ」の一節に託し、国家権力へ、いや日本全国の皆さんへのメッセージとします。

我島喰わたる あゝの戦

我親喰わたる あゝの艦砲

誰があの様 仕出ちやら

恨でいん 悔でいん 飽じやらん

子孫末代 遺言さな

うんじゅん 我んにん

貴方ん 我んにん

艦砲ぬ喰え残さー

(二〇〇四年六月)

(うないネット・コザ主宰)

「良心的兵役拒否国日本」であり続けたい

岡本三夫

日本国憲法第九条は日本国土の焦土化、ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下、世界で六〇〇〇万人の命を奪った第二次世界大戦への激しい反省を土台にして生まれた「核時代の憲章」（マグナカルタ）であり、「世界の宝」、「人類一〇〇年の計」です。

日本はこの貴重な財産をもとに、世界の平和、秩序、繁栄、人権擁護、環境保全のためにリーダーシップを発揮しなければなりません。そうしてこそ、「アジア諸国への侵略という日本が犯した罪惡」の償いをする事ができ、近隣諸国の許しを得、信頼を獲得することができるのです。

これまでの五〇数年間、憲法九条のおかげで、日本は、戦争をしない国、経済の国、技術の国、先進国中で一番秩序が安定し、安心して暮らせる国だ、と見られてきました。中東諸国でも、日本の評判はよく、ほとんど理想化されているほどでした。バグダッド、イスタンブール、ベイルート、カイロなど、私が訪問した中東諸国は限られています、どこへ行つても、日本の自動車や家電製品の看板が目立ち、「メイド・イン・ジャバン」の評判は抜群でした。勤勉な日本の商社マン、技術者が中東をはじめ世界で築いてきた評判は、私たち日本人が誇りにしていい大事な遺産です。

しかし、小泉政権のアメリカ一辺倒外交は、このような日本の遺産を水泡に歸し、アラブ諸国における日本人の生命を危険にさらしています。すでに二人の外交官が殺され、民間人が拘束され、フォト・ジャーナリストが殺されました。

かろうじて生還した写真家の安田純平さんは言っています。「丸腰だったから、私は助かった。武装していたら命はなかったろう」と。

沖繩戦でも、ある島に上陸した米軍は、島民を一人も殺さずに引き上げたという話が残っています。島には日本軍が駐留していなかったためでした。

「やられたら、やり返す」という武力行使は、暴力の連鎖を生むだけです。

パレスティナがその見本です。

アフガニスタンでもイラクでも、武力による制圧で秩序と平和はもたらされたでしょうか。

答えは「ノー」です。

逆に、暴力はエスカレートし、これらの地域を越えて、インドネシアで、スペインで、トルコで爆破事件が多発しています。

ブッシュ大統領や、イスラエルのシャロン首相が平気でやっている「国家テロ」が続くかぎり、「対抗テロ」をなくすことはできず、世界は「パレスティナ化」しかねません。

ダブルスタンダードではなく、公正な法の支配、原則的に非暴力的な粘り強い外交によらなければ、秩序の回復と平和の達成は望めません。

今からでも遅くはない。小泉首相は、自衛隊員の命を尊重し、一日も早くイラクから自衛隊を撤退す

べきです。

憲法第九条のある日本は、「良心的兵役拒否国」であることを正々堂々と宣言し、戦場から姿を消すべきです。

日本が引き受けなければならない責任は、軍事的貢献以外にいくらでもあります。そのような日本の態度は、やがて世界の模範となり、世界の国ぐにが日本を見習うならば、世界から暴力を一掃し、テロの発生を防ぐことになるのです。

これは決して夢ではありません。

（広島修道大学）

「小泉を当選させた責任」のなかで 柳田節子

憲法改正（改悪）反対・イラク自衛隊派遣反対等については、すでに、さまざまな分野の方がたの、いろいろな角度からの意見、感想がのべられ、語りつくされていて、今さら私が、こと新しく屋上屋を重ねることもあるまい、とも思われるが、それでも、一人でも多くの人たちが、つぶやきでも、ひとり言でも、声をあげることが求められているとも思う。戦後六〇年、積みかさねられてきた、私たちの平和への願いは、小泉首相の一言のもとに踏みにじられてしまい、かなしみとも憤りとも、無念の思いは抑えきれない。その上、小泉首相は、自衛隊の多国籍軍参加まで申し出て、これこそ国際的貢献とばかり、得意満面である。既成事実を次々と積み重ね、越してはならないハードルを次々と越して行つてはばか

らない。私たち国民に背を向けて、もつぱら、プッシュ大統領の方に笑顔を向け、不義の戦争に加担している。毎日毎日、無辜の民衆の命が奪われていく。小泉首相は、私たちの納めた税金を、まるで自分のポケットマネーでもあるかの如く、惜しげもなく使っている。私は、私の納めた税金を、そんなことに使ってもらいたくない。

しかし、考えてみれば、そんな小泉自民党政権を選んだのは、ほかでもない私たち国民なのである。イラク派兵賛成、憲法改正(悪)論の議員たちが、選挙のたびにまたソロでてくるのである。選挙民一人ひとりに尋ねれば、戦争絶対反対、二度とくり返してはならないと、ほとんど全員から異口同音に返事が返ってくるのに、小泉人気は五〇%を下らない。本当に戦争反対というのであれば、戦争に通じる九条改悪論者を国会に送り込んではいならない。

人の命ほど大切な、かけがえのないものはない。モノは失われても回復できるが、人の命は、とりもどせない。戦争は、惜しげもなく人を殺し、殺される。私は一九二一年生まれの戦中派世代である。男に生まれていれば、生き残ることはできなかったであろうと思いつつ、戦後を生きてきた。

私には兄が一人いる。軍隊で命を奪われた。国は、ささやかな家族の幸せを土足でふみにじった。戦争で受けた深いきずあとは、六〇年たった今もお癒えることはない。国とは何か、天皇とは何か、日本がアジア諸国の人びとに対して犯した、償いようもない残虐行為。今の私にできることは何か。

日中戦争中「金鶏勲章」を受けた「爆弾三勇士」。沖繩戦で連日、わだつみに沈んでいった特攻隊の若者たち。今流に言えば、日本国の名において、軍の命令の下で行われた「自爆」以外の何ものでもない。問題は複雑ではあるが、政府は、イラクで連日のように起こる「自爆」を非難することはできないだろう。なぜか、そんなことが胸中を去来するこの頃である。

正義はひとつ。非戦のみ。

中山千夏

冷静残酷な殺戮にほかならない国家間戦争と死刑制度をなくすのが、私や多くの仲間たちの願いです。どんなに正義があっても、戦争そのものの、死刑そのものが、大きな不正義なのだから、それをしてしまったら、せつかくの正義も汚れてしまいます。

ましてや、アメリカ合衆国とその連合国によるイラク襲撃には、正義など微塵もありませんでした。あれは、大多数民衆が表明した反対を押し切って開戦された、究極の反民主主義戦争でもありました。すべてが大国によるイラク侵略、イラク占領にほかなりません。その一味に日本政府が加わったことは、この国の有権者として、とてつもなく腹立たしくまた恥ずかしいことでありました。

とめることはできなかったけれど、せめて、これがそのまま、まかりとおる歴史を作らせてはならない、と強く思います。これほど大きな不正義を黙って許してしまったら、その欺瞞の上に築かれる社会は、必ず悲惨なものになるでしょう。

もうすでにそうなりつつあるように、子どもや若者は敏感に社会の不正義に反応して、絶望し、絶望に見合った生き方をするものです。その現実を見ずに、あたかも自衛隊のイラク派兵こそが現実的な政策であるかのように言い募る政治家や政治評論家こそ、国家という幻に惚けている愚者です。

今、イラクの空の下、戦火から逃げまどっているひとりひとりの生命にかけて、また国家によって強引に戦場に送り込まれるひとりひとりの生命にかけて、これからの世界で生きなければならないひとり

ひとりの生命にかけて、私は断固、自衛隊のイラク派兵に反対します。イラク派兵に加担する政治家を絶対に拒否します。

(作家)

今日は六月一五日……。

平和が崩れる音が聞こえる

小川みさ子

朝から、集中して原稿作りをしていて、ふと気がついたのですが、今日は六月一五日！

一九九二年のPKO成立の日です。

あれから平和は年々悪化の一途で、有事法制もますます強化。自衛隊派遣も始まってしまってる。湾岸戦争即時停戦、PKO成立、小選挙区制導入反対！と、いつもいつも鹿児島西駅の前でハスト、座り込みをしていたファイトが、なぜか今はない。

六月一五日、それは、安保改訂阻止第二波実力行動に、学生たちが国会に突入、警官隊との衝突が繰り返される中で東大生の樺美智子さんが圧死した日でもあります。

樺美智子さんの死は、六〇年安保闘争の象徴のように言われる。一九六〇年の六月一五日に亡くなったので、ご健在だったら六〇歳のはじめかな。

敗戦後、半世紀以上、常にいろいろな闘いがあって、かろうじて平和を保ってこられたのかもしれないけれど、何と言つても『平和憲法！九条』があつた。誰かが「自民&民主は、飼い主がいしょ！」とコメントしてました。

まさに、自公民によつて、再び軍国化。そんな中で、護憲を訴える社民と共産……。

もともと〈党〉は好きではないけれど、そんなこと言つてる場合じゃない。今回の国政選挙で、社民党&共産党が負けたら、護憲スタンスで、質問する議員がいなくなる。そう、考えたら焦る。生き残つてもらわなきゃ。

ガラガラガラつと平和が崩れる音がする。今、政党の好きとか嫌いとか！ではなく、何を選択する時なのか。

年金騒動などで、政治に期待がないから棄権が多いだろう！

焦る。何をすればいい。落ちるとこまで落ちなきゃ暴走は止まないのか？

過去の戦争の始まりもこんなだったのだろう……。

平和が崩れる音が聞こえる。

（鹿児島市 市議会議員）

自衛隊の多国籍軍参加に反対し 平和憲法を守りぬこう

山根幸夫

私は一九二一年の生まれである。さきの戦争では、小学校の同級生も、中学・旧制高校の友人たちも、本当に大勢戦死してしまった。

私は一九四二年初夏、肺結核にかかって病氣休学を余儀なくされ、徴兵検査も丙種合格であった。当時丙種というのは、兵隊として役に立たぬというレッテルであった。戦場に赴いた、多数の優秀な友人たちは戦争の犠牲になってしまった。

敗戦後、澎湃として民主主義、平和主義が高唱され、軍国主義、国家主義は、きびしい批判にさらされた。

そのような中で「平和憲法」が成立した。私たちは双手をあげてこれを歓迎し、再び軍備をもつことを拒否し、不戦を誓ったのであった。

私は級友たちより遅れて、一九四七年大学を卒業し、やがて大学の教壇に立つようになった。私は毎年、最後の講義の時間に、学生たちに対して、「敗戦後のわが国が、どうしてこのように国力を回復し、繁栄をとり戻すことができるようになったか、その最大の原因は、どこにあるか、考えてほしい」と訴えるのを常とした。

説明するまでもなく、それはわが国が軍備を廃止し、軍隊をもたなくなった結果であった。

しかし、朝鮮戦争をきっかけに警察予備隊が生まれ、それが自衛隊に発展した。

平和憲法に定めるところにより、自衛隊はあくまでわが国を防衛するためのもので、決して他国と戦争するものではありません。

このような自衛隊の性格を、学生諸君に強く認識させておく必要があった。

将来、日本の政治情勢が大きく変化して、憲法を「改正」し、再軍備を強行しようとする時代が来るかもしれない。ただし、憲法を改正するためには国民投票を実施して、日本人の半数以上が改憲に同意しなければ、不可能なのである。どうか皆さん、そのような事態になった場合、ぜひ改憲に反対する一票を投じてほしい。私たちは平和憲法を守りぬかねばならぬ、と訴えた。学生諸君はみな私の訴えに耳を傾けてくれた。

それから十四、五年たった今、日本の政治状況は大きく変化してしまった。与党の自由民主党は、こぞって改憲を叫んでいる。同じ与党の公明党も、それに反対ではないようである。野党の民主党の中にさえ、改憲に賛成する者がいるようである。新憲法が生まれて以来、ずっと守りぬかれてきたわが国の平和憲法は、いま崖っぷちに立たされている。

半世紀以上にわたって、わが国の平和と繁栄を保障してきた平和憲法を放棄する必要はどこにあるのか。

為にする政治家たちは、「アメリカのおしきせ憲法を廃止して、自前の憲法をつくらねばならぬ、」と主張する。たとえ、アメリカの示唆でつくられた憲法であったとしても、それが良いものであれば、私たちは平和憲法を守りぬくべきである。

ところで、いま公然と日本の平和憲法を破壊しようと企てているのが、自民党の小泉首相である。G8で渡米するや、早速ブッシュ大統領と会談し、閣僚たちとも、与党の自民党とも、何ひとつ相談することなく、イラクの多国籍軍に自衛隊を参加させることを申し出た。

多国籍軍に参加することは、軍事行動に加わることである。一国の首相が、みずから率先して平和憲法を破壊しようとしたのである。アメリカのご機嫌をとり結ぶために、彼はこのような態度に出たのであろう。そして、その矛盾をとりつくりうため、「自衛隊は多国籍軍に参加はするが、その指揮下に属さない、との了解を、米・英両国からとりつけた」と弁解した。

本当にそうであろうか。

(東京女子大学名誉教授)

《絶望》を《希望》に変えよう

浦島悦子

日本が敗戦して軍隊から復員してきた青年と、戦時下の勤労働員から解放された少女(母はまだ一八歳だった)が結婚して、一九四八年の初めに私は生まれた。日本国憲法とほぼ同じ年月を生きてきた者の一人として、私は、この憲法を巡る現在の状況に大きな責任を感じずにはいられない。

天皇制ファシズムに総動員され、夥しい被害を被ったばかりか、それを上回る加害の果てによりや戦争から解放された人びとが、主権在民・戦争の放棄(平和主義)・基本的人権の尊重をうたった憲法を、どれほどの喜びで迎えたか、想像するだけで胸が熱くなる。それは、瓦礫の中に燦然と

輝く希望の灯であつたにちがいない。

それがこのようにも無惨に踏みしだかれる日が来ることを、私たちは想像しえただろうか？

否、いま思えば、想像しなければならなかつたのだ。憲法は何もしなくても当たり前にあるものではなく、普段にそれを活かす努力をしなければ当たり前でなくなることを。

そして、知るべきだったのだ。日本国憲法の誇るべき三原則が、その外に置かれた沖縄を踏み台にして成り立っていたという矛盾を。

存在そのものが憲法違反の自衛隊のイラク派兵が、いとも簡単に決まり、実行に移されていくのを、なす術もなく見ていなければならぬ絶望感の中で、私は自問した。新しい未来を造っていく規範を手にした私（たち）は、果たしてそれに魂を吹きこむ努力をしてきただろうか。

答えは否だ。

この六〇年、数え切れない人権侵害、軍事力の増強、国家権力の暴走……ありとあらゆる憲法違反がまかり通ってきた。それを許してしまった私たちの怠慢の積み重ねが、現在の事態を招いたのだ。

沖縄に暮らし始めて一五年。「平和憲法の日本」に復帰したはずのこの島が、一皮剥けば米軍占領下と変わらず「憲法の外」に置かれている現実を日々目の当りにして、肌で感じさせられている。

だから、私（たち）には絶望することなど、許されない。

形骸化が著しいとはいえ、幸い、憲法はまだ死んだわけではない。

未来の世代への責任として、今、ここから、それに命と魂を吹きこむ普段の努力を始めよう。

まずは今度の参議院選挙だ。

（沖縄県・市民アセスなど）

無党派の一票

木村聖哉

私は「支持政党なし」の無党派だが、選挙のときは常に「野党」に投票してきた。

選挙権を得て四〇数年、一度も棄権はしていない。投票は納税者の「権利」であり、選挙のときしか自分の「意思表示」ができないからである。

しかし、選挙結果にはいつも失望させられた。この国の大多数の人は「政権交代」を望んでいないようだ。政権交代がなければ腐敗は決してなくなるらない。

故羽仁五郎氏がかつて言われたことがある。「政権交代を望むなら野党第一党に投票すべし」と。論理的に考えると、そのとおりである。

現政権に反対ないし批判の意思を示すのなら、野党第二党でも野党第三党でもかまわない、とにかく野党に投票すればいい。

だが、それでは政権はひつくりかえらない。本気で政権交代を望むなら、政権に最も近い野党第一党に投票すべきだ。野党第一党が多少頼りなくても不満には目をつぶり、「よりベターなもの」を選ぶしかない。棄権しても何も変わらないことは過去が証明済み。

もし政権交代が実現し、新しい政権がスタートしても、気に入らなければ、次の選挙でまた野党に投票すればいい。

そう思うものの、では今夏の参院選で野党第一党の民主党に投票するかどうか……は、まだ分からない。いつものように投票日まで悩まされるだろう。

(東京都杉並区 フリーライター)

並ぶ

田上悦子

援助物資を受け取るアフガン難民の長い行列は
半世紀以上前の日本の姿

その頃冷凍芋の配給に並ばねばならなかった母は必死だった

現在の私は 列に混じってただ並ぶのが好き

前後に並んでいる人が話しかけてくれる

私も前後の人に話しかける

映画館の前では 若い女性と俳優の話

評判のラーメン屋の側では サラリーマン氏と好物の話

ストーブの安売りセールでは 独り暮らしの老人と季節の話

エトセトラ エトセトラ

ほとんど気まぐれに それでも大真面目に並んで

ゆるやかな時間の流れに 身を委ねるのが好き

ときには 何の行列か判らない 長蛇の列のときもある

判らなくても 体の虫が騒ぐので先ず並ぶ

前の人に 何の行列ですかと尋く

前の人にも判らないときがある

直ぐ後ろに付いた人も知らないとなると
ほんとにほんとに 嬉しくなってしまう

そのうえ

自分の番になつて

(あなたは駄目です)と

断わられたこともまだない

難民証明書を持っていなかったばかりに

小麦粉をもらえなかった

アフガンのモハメドじいさんのように

この国にもそんな時代が来るのだろうか
ふたたび――

飢餓 差別 戦争の蹻音が

近頃だいぶ大きくなった

日本国憲法こそ人類史上の宝物

古川ひろし

私は二〇〇一年八月に憲法を詩文型に組んだ『二一世紀を生きるあなたの日本国憲法』（北水）を出版しています。この本が他に類を見ないことに、いま気がついています。

私は各地の憲法講演会を通して、前文から憲法の心を読む運動を呼びかけています。

この本の組み方ですと、主語と述語がすつきり見えてくるので、小中学生にも意味が心に刻まれる。

主語はみな「日本国民」われら」なのです。述語は「行動し・確保し・決意し・確定する。排除する。念願し・決意した。思う。確認する。信ずる。誓う。」です。どこから見ても政府「国家の勝手を許さない国民の宣言文です。

文明以来、支配者が人民を支配し、侵略戦争に動員してきた。

日本国民は



正義と秩序を基調とする
国際平和を誠実に希求し

国権の発動たる戦争と
武力による威嚇



古川ひろし

それに対し、人権・平和・人民主権、国会を国権の最高機関とし、正当に選挙した代表者を通じて行動していく人類の英知が結晶してきた。自由も幸福も人権も平和なしではありえないことをうたった平和宣言が、日本国憲法です。

「自由」「人道的支援」「平和」「第九条」……

「人民」の側と「政府与党」の側とは、〈思い〉のところに違いがあります。

その大もとは「国民」という用語にあると思うのです。People を国民と訳したところにあります。

「People」を「国民」と訳すと、「一人ひとりの日本人びと」ではなく「国あつてこそその民」「国家の面目が立たない日本人は国民ではない」ということが前面にでてきています。

この意味あいでは「国民」といつている人は、憲法をほんとうの意味で読むことができません。

「わけがわからない」とか「悪文だ」と公言している為政者がいます。

「戦争ができなくて国が守れるか！」

又は

武力の行使は

国際紛争を

解決する手段とは

永久に

これを放棄する

前項の目的を達するため

陸海空軍

その他の戦力は

これを

保持し

国の交戦権は

これを

認めず

「愛国心」「公共心」「法律を守ることはスポーツのルールのように義務だ。義務を果たしてから権利」

「先生は公務員、指導要領に従わなくては義務違反!」と、やつきになってきています。

しかし、「人民の人民による人民のための政治」です。政府には決して戦争はさせないと書いてあります。

「国民」を「人民」と読める人には、日本国憲法は「宝物」です。政府が国家が戦争を起こし、国民をまきこむことが、憲法から視ると見えてきます。

アメリカのブッシュは石油利権のためにイラク戦争をしているので、米軍占領は続き、アメリカびいきの政権をイラクにくるために動きます。日本国憲法には、「われらは、全世界の国民は、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和の内に生存する権利を有することを確認する」と書かれていますから、平和に関していささかのあいまいさもありません。

「武力が平和をつくる」と信じ、大企業とともに軍事化を進める〈責任政党〉は、教育・福祉予算をきりつめ、消費税をあげて、彼らなりの解釈の方へ憲法改正するというのです。

アメリカと大企業の利益に貢献するから〈責任政党〉は、政治

天皇
すは
摂政
及び
国
大
臣
国
会
議
員
裁判官
その他の



99

献金を受け取ることになります。

平和を愛する世界の人びとと連帯して〈安全と生存〉を守っていきましょう。

「人びとのためにこそ政治はある」ということを自覚している候補者を選んで、憲法違反の法令いつさい排除できる政府を創ろう。

いまこそ憲法を読んでこれを生かしていきましょう。

「活憲政府をつくる」が私たちの合い言葉。互いに人と人が、国と国とが尊敬を広げていく社会と世界を創ろう。

「3」（3のゼロ乗）になりませんか。

まず、三人の人に日本国憲法の前文と九条をコピーして、声を出して一緒に読むのです。

受け取った三人も、同じように三人の人にコピーを渡して「読んでね」というのです。すると3の17乗は一億二九一四万〇一六三。——一七日後には日本中のすべての人が憲法を読んだことになります。

希望はあります。

（東京都調布市 元中学校教員）

公務員は

この憲法を

尊重し

擁護する

義務を

負う

護憲の想い——小さな提案　しま　ようこ

わたしは戦後の新制中学第一期生として、青りんごをかじる齒ごたえで『あたらしい憲法のはなし』を学びました。

それ以降、とくに憲法九条と一四条は自分の「身体」になりました。

この憲法が占領軍からの押しつけだったたり、国際社会情勢の変化に耐えないものだったとしたら、子供の胸を揺さぶり、その後の半世紀を超える個人史の屋台骨を支える力を持ち得たでしょうか。

改憲派に問いたい。

「人を殺さない戦争が可能ですか？ 殺された人は、天が裂けても地が割れても決して帰ってこない悲しみを、あなたは味わったことではないのですか？ 想像さえできないのですか？」と。

一人の大男の「正義」が地球村を踏みにじりつつあるこの危機に、護憲の想いを静かにしごとく何世代にも手渡したい。しかし「想い」にとどまったり集団で声高に叫ぶだけでは、護憲力の根を太らせることは困難ですね。

そこで、小さなちいさな提案をします。

「浅はかな改憲」の核になっている憲法九条を、じっくりじっくりと読み、これが自分の生活感情のどの深みにまで響くか、確かめませんか。

読むだけでなく、ゆっくりゆっくり書き写しながら。

どの文言をどう直しても「大男の尻についていく小男の国の憲法」になり下がると、想像力を全開し

ながら。

さらに他の条文もめぐりながら、自分の視点から気になる条に分け入って行くと、自分流の護憲スベシヤリストになれそうです！

一日ほんの一〇分、毎日毎日、まいにちまいにち続けませんか？

こんな「こつこつ護憲時間」を積み上げる女たちの底力が、地球村の分水嶺を支える時代ですもの。「改憲のための国民投票」に丸投げしかねない無責任な政権党に足をさらわれないように、「護憲」を暮らしそのものに引き寄せて付き合いませんか？

（東京都葛飾区 詩人

今度の選挙が「平和憲法」を護る分岐点

栗原君子

アジアの人びと二〇〇万人以上、日本国内で三〇〇万人という人びとの犠牲と反省の中から手にした平和憲法は、いまや風前の灯です。

なぜ、このような時代になったかを考えたとき、（但）日本社会党の責任大といえましょう。

かつて、細川内閣時代に、財界の後押しもあり、政治改革法と称して、小選挙区制を導入しました。その法案審議の時、私たちは、「小選挙区制を導入するのは、大きな保守政党を二つ作り、その二つでいつでも政権交代可能な状態にするもの。自衛隊は武装して海外に出て、憲法九条まで変えられてしまう。

社会党もなくなる……」と抗議し続けて、賛成を主張する日本社会党の党議拘束に反して反対票を投じました。

この政治改革法案は、参議院で否決され、廃案寸前でありましたのに、土井議長の斡旋により、河野・細川会談がセツトされたことで生き返って、小選挙区制が成立しました。

私は党議拘束に違反したということで、党から糾弾と処分を受けることとなりました。

「だから言つたでしょ」と、いま、思い起こすだけでも悔しさで涙がでます。

当時、マスコミをはじめ、物言いや物書きまで、「バスに乗り遅れるな」と突つ走つたことが、今日の戦争への道につながってきました。

愚痴つてもはじまりませんが、二〇〇五年五月には憲法調査会のまとめが出され、一月には自民党の改憲試案、〇六年には民主党の改憲試案が出されると言われています。次の国政選挙では改憲のための国民投票を盛り込まれるかもしれません。その前段として、平和憲法と一体のものである教育基本法の改悪により、「戦争のできる人づくり」がされようとしています。

七月十一日の参議院選挙では、平和の願いを死票にしないために、選挙区・比例区ともに護憲票を集めさせることが先決かと思えます。

その試みの中で「新しい市民党」誕生の動きもあります。

さまざまな形で、「憲法を変えるのではなく、平和憲法を護り抜き、その内容を生かすことが先決」と訴えましょう。

(元参議院議員)

イラク戦争なんて存在しない

矢崎泰久

メディアは「イラク戦争」と書いているが、そもそもイラクに戦争など存在しない。アメリカが行なったのは、「イラク侵略」であり、それに協力した国々には、いずれも侵略国の汚名を甘受するしかない。たとえ、大量破壊兵器があつても、秘密科学兵器があつても、侵攻の理由になんてならない。だいいち、それを保有しているのは、当のアメリカなどの大国ばかりではないか。

仮にイラクや北朝鮮がブッシュの言う「悪の枢軸」だとしても、それは一方的な見方であつて、逆転させれば、アメリカこそが「悪の枢軸」そのものである。そんな単純なことすら、この世界では、ないがしろにされている。

かつて、二〇世紀は「戦争の世紀」だったが、二一世紀は「平和の世紀」にしようという人類の大いなる希望があつた。それを踏みにじつたのはアメリカに他ならない。アメリカの思惑には、世界経済の支配という恐るべき野望が潜んでいる。

そんなアメリカに追従するばかりか、イラク復興を理由にする多国籍軍に自衛隊を参加させるという無茶苦茶な決定を小泉純一郎はやつてのけた。彼こそが亡国の徒であり、まさしく売国奴そのものである。自覚のないところが、実に恐ろしい。平和憲法が悲鳴をあげている。

私はもとより非暴力主義者である。憲法の第九条にある、「戦争放棄」および「戦力の放棄」には諸手^{もろて}を挙げて賛成である。憲法改正への論議がいくらあつたとしても、この条項だけは断固として譲るわけ

にはいかない。

それにしても、この国は危うい。そのほとんどの根源は、大衆無視の反動化である。戦争の悲惨さや恐ろしさを知らない人が増えていることもわかるが、戦争に何の益もないことを知ってほしい。イラクについての偏った報道を見ても、そうした悲惨な現状は垣間見ることができるよう。ようするに武力によっては何も解決できないのである。

パレスチナ、アフガン、コソボなど、どこに目をやっても、悲劇はなくなならない。私たちは非暴力と非戦を貫いて、いかなる孤立も怖れることなく、恒久平和への道を探し求めるしかないと思う。

再度言うておきたい。二一世紀になってから、イラクには、戦争と呼べるものは、ただの一度も存在していない、と。

(ジャーナリスト)

「流れていく先はどこ？」

岡田孝子

このところ、だんだん不可解なことが多くなってきた。とくに最近急速にその度合いを強めている。イラクへの自衛隊派遣を無理やり強行したと思ったら、今度は法律も変えずに多国籍軍への参加だという。イラク特措法で、十分可能だということらしい。

憲法九条を勝手に拡大解釈しての自衛隊派遣だったが、このような矛盾だらけの法律解釈が通ってし

まうことが恐ろしい。その空気が何よりも怖い。

イラク人質事件はもとより北朝鮮拉致家族への異様なバッシング、教育現場でのあからさまな日の丸・君が代の強制。国家、政府を批判、反対するものは容赦しないという、まさにおどしに満ちた社会に、今の日本はなりつつある。

六月一四日付け朝日新聞夕刊に、次のような記事が載っていた。東京・中野区の新任小学校PTA会長が、入学式の挨拶で、この日の丸・君が代の強制について批判的な話をしたら、すごいバッシングを受け、辞任したという。校長、PTA、地域の有識者などから非難ごうごう、「強制された辞任」だったと、本人は語っている。いったい、これは何なのだろう。勇気を出して発言した者をよってたかって叩き、発言を封じ込めて沈黙させてしまう。「言論の自由」がここまであからさまに脅かされている時代を、戦後生まれの私は知らない。

戦前に女性の権利、人間としての権利を求めて闘ってきた方たちに、今までいろいろとお話をお聞きしてきたが、その戦前の空気が過去の話ではなく、今の日本の現実 に似てきているように思える。

有事関連七法も成立した。自己都合で拡大解釈してばかりいる政府が、どのように、これらの法律を使おうとするのか。

このまま流されていく行く先を想像し、危惧を覚える人間は少なくないはずである。今、私たちは「ノー」と声に出して言える勇気を持ちたい。

イラク民衆の未来を奪う 劣化ウランという「虐待・拷問の放射能犯罪」

森瀧春子

イラクで今、何が起きているのか。私たちは、知らなければならぬ。

一九九一年の湾岸戦争以来、白血病そのほかの「がん」などの発生率と子供たちの死者数の異常な増加という事実は何によってもたらされているのか。今も続くイラク戦争は、イラク民衆とイラクの大地をどのように破壊し尽くしているのか。

イラク戦争の前夜の二〇〇二年十二月と、イラク戦争直後の二〇〇三年六月の二回、私はイラクを訪れ、現実をこの目で見た。一回目は、アメリカが何でも仕掛けようとしていたイラク戦争を止めるために、二回目は止めることのできなかったアメリカの戦争が何をもたらしたのか、戦争被害と劣化ウラン弾使用被害の調査のために。

湾岸戦争時にクウェート国境の砂漠地帯で使われた劣化ウラン弾（DU）がもたらした放射能被害のすさまじさは、十五歳以下の子供たちの命が毎月六〇〇〇人から七五〇〇人奪われていること、がん患者の発生率が湾岸戦争前に比較して一〇倍も増えていること、流産を繰り返したあげくに産んだ子供たちの多くが、先天性の知的・身体的障害を持たされ、そのほとんどは、生き延びることができないこと、などの事実によっても明らかである。

今回のイラク戦争において、バグダッドなど人口密集の都市部を含む全土で、劣化ウラン弾が大量に使用されたことは、私が採集した土サンプルや人体の尿サンプルの分析結果によっても証明されているが、そのことから予想される今後の放射能被害として、湾岸戦争後の状態をはるかに凌ぐ、想像するのにも恐ろしい民族全体の虐殺をも、もたらしかねない。すでにこれまでの戦争による生活手段の破壊によって、イラクの人びとの生活を根こそぎ奪い去っている。

五月にはベルリンの核戦争防止医師の会（IPPNW）ヨーロッパ会議で、バスラ教育病院がんセンター長のアルーアリ医師が、六月には広島で、バスラの産科小児科病院のジャン・ハッサン医師が示したスライドは、どちらも現場の医師たちが日々直面している、生と死のこれ以上ない非人間的な凄惨な姿であった。

生まれた時から、人間としての姿を奪われた子供たちの姿を、戦争を仕掛けた者たち、それを支持した者たちよ、直視せよ！ 広島で、長崎で、大量虐殺をした同じその手で犯した、この非人間的犯罪を！ アルーアリ医師は訴える。「イラク人への虐待は戦後始まったのではない。湾岸戦争以来ずっと続いてきた、そしてこの放射能被害による拷問は、今からも半永久的に続くであろう」と。

アメリカも、イギリスも、日本も、その政権は、イラクに派兵した自国の兵士たちを、イラクの人びとと同じ放射能被害に曝して、あくまでも自己の権益を追求し、中東世界の支配を推し進めている。

不法にも戦地・イラクに自衛隊派兵を強行した小泉政権は、今また多国籍軍にまで参加することによって、実質、日本国憲法を完全になくすり捨て去ろうとしている。

すべてのイラク占領軍を即時撤退させよう！

自衛隊の多国籍軍への参加を許すまい！

イラク人民の苦悩を共有し支援しよう！

非人道的放射能兵器D Uを核兵器とともに廃絶しよう！

（核兵器廃絶をめざすヒロシマの会・共同代表）

大衆行動の厚みが憲法改悪を阻止する

放射能のごみで作られた劣化ウラン弾NOの経験

柳田 真

米英軍はアフガニスタンとイラクで、大量の劣化ウラン弾（放射能兵器）を使用しました。その悪影響は、戦争後数年たつと飛躍的に大量に出てきました。

劣化ウラン弾は原子力のゴミ劣化ウランで作られるゆえに、放射能被害と重金属毒性のダブル被害なのです。

たんばば舎は一九八九年（二五年前）の発足以来、原子力と環境をメインに活動してきた市民団体なので、原子力のゴミ劣化ウラン弾へのとりくみが早めであった。

一九九一年の第一次湾岸戦争で三〇〇トンの劣化ウラン弾。今回は二〇〇〇トン以上。実に七倍もの

大量に放射能兵器が使われたので、今後、イラクの子どもたちががん・白血病で多数死亡させられるでしょう。

戦争後に、土地と人間をこわしつづける兵器はむごい。米国・英国は二一世紀最大の犯罪をおかしました。

私たちは三月二七日に約五〇〇の市民団体・グループの協力・協同の力で文京区民センターを満員にして、〈劣化ウラン兵器禁止・市民ネットワーク〉を結成しました（呼びかけは一〇団体）。

その前段では、三月二日に外務省交渉（劣化ウランの汚染調査せよ、医療支援せよ）、三月二〇日の日比谷でのワールド・ピース・ナウでの人文字（NODUを四三〇人で実現）などの盛り上がりを創りだしました。

また四月には、イラクで拘束された三人の若者の命を救え・救出運動をし、若い人びとがたくさん参加し動きました。市民運動の大きな盛り上がりが拘束の三人の解放という成果になりました。

大衆行動の厚みが「自衛隊は撤退せよ」の運動と幅を大きくしたと思います。

現在は月一回の全体会議、ニュースの発行（月刊・八頁）、月一回の基本講座……などの諸活動をおこない、イラクへの医療支援、劣化ウラン兵器禁止の世論づくりをめざしています。

迫力ある大衆行動——大衆運動の重層的な展開が憲法改悪を阻止すると思います（展望が出る）。

大衆行動と切りはなされた選挙活動では、層の厚い、自民―公明を打ち破ることはなかなか困難です。九〇年初頭のPKO法反対闘争の大衆行動の高揚の中で、無名に近い内田雅敏弁護士が三一万票を東京選挙区で獲得しました。私たちも含め、選挙に不なれな者や選挙ぎらいの者も、反PKO法反対闘争

として、その延長上に内田選挙を全力で闘いました。それゆえ、支持政党も組織もなしで三一万票になったと思います。

小泉自民党と公明党によって、イラク（海外）派兵——憲法改悪の足音が間近にドタドタと迫ってきた。老朽化した原発の利益中心の運転——大事故の発生も心配です。

劣化ウラン兵器NO——原発NO——の活動経験も重ねて、かなりの人びとが危機感を表明し、行動に参加しつつあります。大・小の大衆的行動の前進の芽を感じます。

これらの力を大きく合流し、改悪を阻止する市民の知恵と力を合わせよう。

憲法改悪NOの候補者を当選させよう。

（たんぼ舎副代表）

「一票」こそが憲法を護る第一歩 小俣光子

私たちはついに崖っ縁に立たされた。

自衛隊のイラク派遣、有事法制、年金改革、さらに、「説明なき多国籍軍参加」。

まさに「この国を滅ぼし、アメリカに捧げる」小泉政権。

戦後秩序が崩壊しているのに、新たな展望が見えず、心の荒廃に社会の弛緩がいつそう深刻になるなか、小泉内閣は「戦争のできる国」に向けて、大きく歩を進めた。

しかし、私は、決して失望しない。

少数派が世論を説得し、やがて多数派に転じて政策を転換する可能性があるのが民主社会の原理である。「投票用紙の紙爆弾」を、人間の健全な怒りとして投げつけ、大きく流れを変えたスペインの例があるのではないか。

この混乱のなかで、明日につながり、小さな力でもよい、明日を拓く道につなげていくために、いま私たちがとれる唯一の手段が、投票に行くこと。そして、幾度かの大戦を経て人類が生んだ一つの理想である憲法九条を守り抜ける人に、一票を投じることなのだと、私は強く思っている。

さらには、足腰を鍛え、すつくと立ち、私たちの「不戦、不差別、不暴力」の志を託せる政治家を、私たちの力で地道に育てる長期的な努力が、明日を拓く道につながると信じている。

道は、必ず拓けるのである。

(東京都 東洋史研究者)

今度の選挙ほど「流れを変える」大きなチャンスはないとおもいます。

たくさんの方がたが、その思いをこめて寄稿してくださいました。

いつも投票しない〈四割の棄権票〉が今度はどこまで動くか。

この号がお役に立つことを祈っています。

各政党の女性政策責任者に聞く

〈平和憲法を護る〉 決定的な選挙となる七月十一日が近づきました。

各党の女性政策と党の基本方針、立候補する女性候補者数と、各候補者の紹介を、五大政党の女性政策責任者におたずねしました。

各党に対してお願いした内容は次のとおりです。

- 1 女性政策として、貴党が最も重点を置いておられること。
- 2 貴党の女性候補予定者のお名前と、お一人につき五〇字以内の紹介文。
- 3 貴党の立候補予定者総数と女性候補者総数。(できればその比率もバーセンテージで)
- 4 貴党が、最も大切にしておられる政策を三つ。

各党とも、超多忙ななかでしたが、それぞれお返事を頂きましたので、お返事の到着順に掲載します。

社会民主党全国連合政策審議会

1・女性議員を増やす。選挙制度を見直す。クォータ制の導入など。

・雇用の平等を実現する。女性の賃金は男性に比べ六五・三％。女性パートの賃金は、女性正社

員に比べ六六・四%。「同一価値労働同一賃金」「均等待遇」確保を目的とする労働法の整備は急を要している。

・女性、子どもへの暴力をなくす。「配偶者からの暴力防止法」「児童虐待禁止法」「子ども買春、子どもポルノ禁止法」をテコに暴力の防止に力を注ぐ。

・一人ひとりが尊重される社会へ。選択的夫婦別姓の導入、婚外子差別の是正など民法改正の実現。社会保障制度、税制など家族単位を個人単位に変える。

・女性の健康と自己決定権（リプロダクティブ・ヘルス＆ライツ）を保障する法律の制定。

2

山内恵子（北海道選挙区） 前衆議院議員。「子どもたちの二一世紀へ、平和憲法・教育基本法をこのまま手渡したい」と奮闘中。（あこら）会員

上田けい子（神奈川選挙区） 新・三和（現・UFJ）総合研究所で公共政策等の調査に従事。「見えないけれど大切なもの」を政治に反映したい。

山口わか子（長野選挙区） 前衆議院議員。保健師・看護師として地域福祉に四〇年。「まかせてください、介護と子育て、安心の年金。」

福島みずほ（比例区） 参議院議員。社民党党首。弁護士。人権・女性・環境をテーマに市民と国会を結ぼうと奔走中。議員立法も多数。（あこら）会員

【推せん】

松岡由美子（高知選挙区） 一九六七年以来、地元の郵便局に勤務。全連女性部委員として労働運動、平和運動に取り組む。日本婦人会議（現在I女性会議）のメンバーとしても女性運動に

も参加。

糸数けいこ（沖縄選挙区） 前沖縄県議会議員。平和・環境・教育・女性問題を柱に幅広く活動を続ける。市民本位の政治を実現。（あこら）会員）

3 選挙区候補者

公認一〇名（新人一〇 内女性三）

推薦七名（新人七 内女性二／内無所属候補六 他党所属候補二）

比例代表候補者計 五名（現職二、新人三 内女性一名）

4 (1) 年金

制度の空洞化を助長する年金改悪法を廃案へ。一律八万円を給付する全額税方式の「基礎的暮らし年金」と保険料方式の所得比例年金を組み合わせ（安心の年金制度）を確立。

(2) イラク

自衛隊はイラクから即時撤退を。イラク特措法など、数々の憲法違反を積み重ね、自衛隊の多国籍軍への自衛隊参加を強行する小泉内閣は退陣を。

(3) 憲法

「戦争のできる国」づくりを許しません。憲法九条を掲げ、軍事力によらない平和を実現。憲法を活かし、憲法の精神を世界にひろげていきます。

公明党女性委員会委員長 浜四津敏子

1 「女性は地球の主役であるばかりでなく、地球の将来は女性の肩にかかっている」というアナウンサー連事務総長の言葉どおり、二一世紀は女性の世紀と位置づけ、女性の声が生かされる社会形成に取り組んでいます。

具体的には①男女共同参画社会の推進②男女の仕事と家庭の両立支援③生涯を通じた女性の健康支援などです。

2 比例区予定候補者

浜四津敏子 現職 一九四五年生まれ。慶応大学卒。弁護士。参議院議員二期。公明党代表代行。党女性委員会委員長。元環境庁長官。「二人の人を大切にしたい」が政治活動の原点で、多彩な実績。

浮島とも子 新人 一九六三年生まれ。東京立正高校卒。「劇団〈夢〉サーカス」主宰。公明党文化局次長。党女性局次長。文化、芸術の力で、潤いと活力ある社会を築きたいと政治の舞台へ。

鰐淵洋子 新人 一九七二年生まれ。創価女子短期大学卒。公明党本部職員。党女性委員会事務局次長。青年が未来に希望がもてる社会の構築をめざして立候補へ。

3 立候補予定総数二〇名中、女性予定候補者数三名（六月一六日現在）

4 ①景気の本格回復をめざします。

中小企業の資金繰り支援の拡大や構造改革で経済の活性化をはかります。

②介護予防サービスで健康寿命を延ばします。

健康増進策、介護予防策を推進し、健康で元氣な社会の構築を進めます。

③生活者の視点で政策実現に取り組みます。

子育て支援拡充や、公共事業の削減、安心して快適な街づくり等を推進します。

日本共産党中央委員会 女性委員会責任者 石井郁子

1 女性に対する差別を是正し、女性が正當に評価され、女性がいきいきと力を發揮することのできる平等な社会をめざします。

男女雇用機会均等法改正で、コース別雇用など事実上の差別や妊娠・出産にともなう差別・不利益扱いなどの禁止をすすめます。パートや有期雇用で働く労働者への差別禁止・均等待遇原則の実現、育児休業制度の拡充など、安心して働きつづけられるルールをつくります。男女平等、均等待遇の実現で、男女年金格差の是正、全額国庫による最低保障年金制度の確立で、女性の無年金や低額年金問題の解決をはかります。女性の独立した人格を尊重し、選択的夫婦別姓制度の実現、婚外子差別是正などの民法改正、配偶者間暴力の防止と救済、自立支援の強化などをすすめます。国連女性差別撤廃条約選択議定書、ILOパート条約などの批准をすすめる、日本の女性の地位を世界の水準に高めます。

【比例代表】

中野明美 党奈良県委員、元県会議員

中野さなえ 党長野県常任委員、女性児童部長

中原美江 新日本婦人の会大阪府本部事務局次長

村主明子 党埼玉県委員、女性委員会委員

望月康子 党東京都常任委員、女性部長

湯川美和子 党神奈川県横浜中央地区委員

渡辺 紫 党北海道常任委員、女性部長、元紋別市議

【選挙区】

北海道 岡 千陽 党北海道平和・くらし対策委員長

宮城 遠藤いく子 党中央委員、宮城県書記長

福島 阿部裕美子 党福島県国政対策委員長、前県会議員

埼玉 阿部幸代 若者の就職難国政問題に、サーピス残業未払い解決 現場の声で政治動かす

前参院議員、党中央委員、県副委員長

栃木 野村節子 党栃木県副委員長、国会議員団栃木県事務所長

神奈川 畑野君枝 国対副委員長として活躍、全国四二道府県の三〇人学級実現に道ひらく

参院議員・文教科学委員、党中央委員

千葉 浅野史子 党千葉県女性児童部長、平和運動部長

新潟 桑原加代子 党新潟県常任委員、県民運動部長

愛知 八田ひろ子 法案提出数トップ、長時間労働是正、藤前千潟守り、児童虐待防止などに力。

参院議員・総務委員、党中央委員

兵庫 大沢辰美 被災者住宅再建に現金支給、鳥インフルエンザ補償措置の実現

参院議員・災害対策特別委員、党中央委員

京都 西山とき子 質問三二〇回、福祉・くらしのエキスパート

参院議員・経済産業委員・議員団男女平等推進委事務局長・党中央委員

鳥取 市谷知子 党鳥取県書記長

香川 近石美智子 党香川県国民運動部長

高知 中根佐知 党高知県常任委員、女性部長

佐賀 武藤明美 党佐賀県副委員長、前県会議員

鹿児島 祝迫かつ子 党鹿児島県常任委員、前県会議員

3 立候補予定者数 七一人

女性候補者数 二三人

(この他沖縄選挙区で無所属立候補の糸数慶子前県議・沖縄社会大衆党副委員長を推薦)

4

(1) 政府の年金「改革」は、保険料の引き上げ、給付引き下げをおしすすめ、膨大な低額年金、

無年金の問題を何ら解決することはできません。年金の空洞化をいつそうすめ、国民の生きる権利を破壊するものです。日本共産党は、政府の年金改悪法の実施を中止させ、国民のための年金改革をあらためて国民的に討論することをよびかけています。国民の保険料負担増にも消費税増税にも反対し、全額国庫負担の「最低保障年金制度」を確立し、安心できるまともな年金制度をつくります。公共事業に四〇兆円、社会保障に二五兆円という「逆立ち」した税金の使い方を大もとからあらため、大企業や高額所得者にヨーロッパなみに応分の負担をもとめ、税金の使い方・集め方をかえて、国民のくらしや福祉第一の政治をすすめます。

(2) 米軍主導の無法なイラク軍事占領を一刻も早く終わらせ、イラク国民の意思によるイラクの国づくりが大切です。国連はその方向に役立つ枠組みをつくることが重要です。

日本共産党は自衛隊のすみやかな撤退をもとめ、多国籍軍への自衛隊派兵に反対します。日本は世界でもきわだつアメリカいいなりの国です。アメリカいいなりに「海外派兵」をつづければ世界とアジアから孤立するばかりです。「アメリカいいなり」の大もとにある日米安保条約をなくすことを外交の大きな目標にすえながら、世界とアジアの平和と友好に貢献する日本をめざします。

朝鮮半島など北東アジアの平和と安定の国際関係をきずくために、拉致問題や核問題など北朝鮮との間の諸問題の解決に力をつくします。

(3) 憲法改悪に反対し、平和でも、国民の生存権、男女平等など民主主義でも人権でも優れた値打ちをもつ憲法を二一世紀の国づくりに生かします。改憲勢力は、「戦争をしない、軍備はもたない」と決めた九条を改悪することをねらっています。憲法改悪に反対する一点での国民の共

同をひろげるために全力をかたむけます。

自由民主党 女性局長 西川京子

1 わが党は、将来を見据え、国民が生涯にわたり、よりよい生活を送るためにあらゆる政策を立案、展開しております。

少子化対策、育児休暇の充実、女性のガン対策（乳ガン検診・マンモグラフィーの緊急処置等）、不妊治療への補助や年金改革等にも積極的に取り組んでおります。

2

【静岡選挙区】

坂本由紀子 五五歳 前厚生労働省職業能力開発局長。「すべての人にやさしい政治を」をモットーに、より元気で、安心・安全な社会づくりに全力を尽くします。

【比例代表】

尾身朝子 四三歳 ITコンサルタント。ITコンサルタントとして、母親として……子育て真っ最中の女性パワーで日本を変えます！

神取忍 三九歳 女子プロレスラー。格闘技を通じて学んだ精神力の大切さを持って、誰もが安心して家族を持ちたくなる様な社会作りを目指します！

南野知恵子 六八歳 現職二期。 「強めよう愛の絆、支えあおう健康なくらし」を信条に、看護

の体験を通し、介護・保育・食育の政策に努めます。

山谷えり子 五三歳 元サンケイリビング新聞編集長。 三児を育てながらジャーナリストとし

て働いてきました。 家族・教育・国なおし。 健康な日本を取り戻したい。

3 自民党公認・推薦候補者総数 八二名（平成一六年六月一五日現在）

内訳・選挙区公認候補 五〇名（公認四八名 推薦二名）

比例代表公認候補 三二名

自民党公認・推薦女性候補者総数 五名

4 わが党にとって、あらゆる事柄が重要政策です。 争点とは、われわれが決めるものではなく、国民の皆様が判断されることだと考えますが、特に重点的に主張していきたいことは、憲法改正も視野に入れて、教育基本法改正や年金を含めた社会保障政策と景気対策です。

民主党 男女共同参画委員長 肥田美代子

1

年金制度

就労形態によって別々になっている制度を一元化、就労形態やライフスタイルの変化に対応でき

る年金制度へと改革。世帯の所得は夫婦が共同で獲得したもの、とみなして、夫婦間の年金権分割案を採用し、年金の個人単位化を図る。

雇用・労働

育児休業・介護休業法を改正して両立支援法を制定し、男女とも仕事と家庭を両立できる環境を整備。パートの均等待遇に向けての法整備を推進。政府調達事業の女性起業家への一定比率の発注枠確保、NPO等による起業を推奨し、女性起業家を増やす。

次世代育成

低年齢児保育、延長保育、休日保育、夜間保育、障害児保育、病児保育など「多様な」保育体制を整備。保育所と幼稚園の連携強化、一元化を図る。

男女平等の基盤づくり

生活のさまざまな場面で知らず知らずのうちに刷りこまれていく固定的な性別役割分業意識の克服に向け取り組む。政策・方針決定過程へ女性の参画を拡大するためクオータ制（割当て制）を含む積極的差別是正（アファーマティブアクション）を講じる。

2

舟山 やすえ 三八歳、新人 山形選挙区 農林水産省

島田 ちやこ 四一歳、新人 埼玉選挙区 TV局勤務、歯科医師

広中 和歌子 七〇歳、現職 千葉選挙区 環境庁長官、党副代表

ちば 景子 五六歳、現職 神奈川選挙区 弁護士、『次の内閣』法務大臣

れんほう（蓮紡） 三六歳、新人 東京選挙区 報道キャスター

五十川 まきこ 四〇歳、新人 福井選挙区 フリーアナウンサー

林 久美子 三二歳、新人 滋賀選挙区 アナウンサー

川条 しか 三四歳、新人 和歌山選挙区 県連副代表

大泉 博子 五四歳、新人 山口選挙区 厚生省、山口県副知事

東条 恭子 五〇歳、新人 徳島選挙区 徳島市議会議員

植松 恵美子 三六歳、新人 香川選挙区 会社社長

円 より子 五七歳、現職 比例区 ジャーナリスト、作家、党副代表

下田 敦子 六三歳、新人 比例区 学校法人理事長

3 立候補予定者総数 七三名

女性予定候補者総数 一三名 (いずれも二〇〇四年六月一八日現在)

4 〈民主党の三つの約束〉

・年金 年金制度の「一元化」で、多様な生き方を応援。

・地域再生 一八兆円の補助金を廃止し、地域で住民が使い道を決められる「自主財源」に。

・政治改革 政治資金の「全面公開」で、国民に見える透明な政治を。

参議院議員選挙にあたっての各政党からの回答

国際婦人年連絡会 政策方針参画委員会

二〇〇四年六月一八日

〔国際婦人年連絡会〕も、各政党に別途アンケートをお願いしました。各政党からの回答を、そのまま、おめにかけます。各政党の（公約）として、投票の参考にするだけでなく、選挙後も、その（公約）を見まもっていきたいと思います。

1、参議院議員選挙にあたり、女性候補者を増やす目的がありますか。今回どのくらい（人数、比率など）擁立する予定ですか。選挙区、比例代表それぞれお答えください。

自 民	わが党はオープンな国民政党として、常に門戸を開いています。国政選挙の候補者に関しても、昨年、党の候補者選定基準を改正し、女性の積極的な擁立方針を明記したところです。この度の参議院議員選挙にあたっては、比例代表において四名の女性候補者を擁立しております。
民 主	六月一日現在で、選挙区候補者四六名中、女性候補者は一名（二四％）、うち新人が九名を占めています。また比例区候補者二六名中、女性候補者は二名（八％）、民主党全体での女性候補者の割合は一八％になります。

民主	また民主党では、男女共同参画社会の実現をめざす党の基本理念に基づき、女性の政治参加を促進するため、一九九九年より「女性支援基金」を設け、今回の参议院議員選挙でも一〇名の女性新人候補者全員が同基金の支援を受けています。
公明	女性候補者は、選挙区〇人、比例代表三人。 公明党の改選議席は一〇で、このうち女性は一人。今回、比例代表においては七議席以上の獲得をめざしており、このなかに女性が二人入るよう努めているところである。
共産	選挙区では四七人中一七人(三六・一七%)、比例代表は二五人中七人(二八・〇%)です。
社民	女性候補者を増やしたいと切実に希望しているが現実にはきびしい状況にある。 選挙区…公認一〇名(内女性は三名)、推薦七名(内女性は二名) 比例代表…五名(内女性は一名)

2、参议院議員選挙の比例代表の投票方法が非拘束名簿方式になっています。この方法は、金権選挙を助長し、新人、とりわけ女性には不利な選挙制度だと思いますが、貴党は、どのようにお考えですか。

自民	従来の拘束名簿比例代表制度は、候補者の顔が見えないとの批判や、政党の行う順位づけが有権者にとってわかりにくいといった批判がなされ、その導入以来各方面において絶えず改革の論議がなされてきました。国民の政治意識が多様化する中
----	--

自民

で、国民の多元的な意思を政治に反映し、参議院の独自性を十分に発揮するため、前回から非拘束名簿式比例代表制が導入されたものと承知しています。この制度では、候補者個人の選挙活動が行われて個人名の投票が選択できるので、有権者にとって候補者の顔の見える選挙となり、また当選順位が個人名票の獲得順で決定されるので、国民の意思が明確に反映されることとなります。したがって、多くの女性を国会に送ろうとする国民の意識が強ければ強いほど結果に反映されるため、ご指摘のようなご懸念はあたらなうと考えます。

民主

そもそも、本方式導入には、業界団体の集票能力に危機感を抱いた自民党が強引に導入したもので、民主党は本方式導入には反対の立場でした。動機不純の導入で、かつての銭酷区といわれた全国区の再来であったことは○一年の選挙が証明したわけですから、私たちの主張は正しかったといえます。ただ、当選させたい人を当該の政党が恣意的に順位を並べるのではなく、国民の意思で当選者が決まるという点では、一概に新人や女性が不利といえるかどうか今のところ検証できていません。

この選挙制度の見直しについては、制度の見直しもさることながら、定数は正の最高裁の違憲判決に、国会が応えないまま七月の参院選挙を執行することに問題があると考えます。

一方、参院のあり方も重要な課題です。その意味で参院改革と定数は正の問題及び参院の選挙制度のあり方は、切り離しては論ずることができない課題となってい

民主	公明	共産	社民
<p>ます。民主党は参院をめぐるこれら議論を注視しながら、非拘束名簿方式の問題点について検討をすすめていきたいと考えます。</p>	<p>拘束名簿方式で上位に女性をランクづけることによって、女性議員を増やす意図が実行できるということもあるが、非拘束名簿方式がとりたてて女性に不利な選挙制度とは思わない。男女の別なく、女性も男性と平等に選挙戦を戦い抜き、堂々と議席を勝ち取っていくことは当然である。</p>	<p>また、参議院選挙の比例代表は「全国」が「選挙区」であり、熾烈な選挙戦が展開される衆議院選挙の小選挙区とは戦い方が大きく異なる。そういった点から考えても、非拘束名簿方式が女性や新人にとって、とりわけ不利な選挙制度とは認められない。</p>	<p>ご指摘のような問題があり、かつ政党を選択するという比例代表選挙の趣旨からも大きな問題があるので導入時にも反対しました。拘束式に戻すべきだと考えます。</p>
<p>比例代表の非拘束名簿方式は、業界など大きな組織、巨額の資金力、知名度のある候補者が圧倒的に有利である。新人とりわけ女性にとって不利な選挙制度であることは、前回の選挙結果で既に証明されている。非拘束名簿方式は、個人名投票を政党票にカウントすることによって票の横流しが生じ、当選させたくない候補者を当選させることにもなる。有権者の民意を踏みにじる非拘束名簿方式はやめて、拘束名簿方式に戻すべきである。</p>			

社 民

拘束名簿式が採用されていた期間は、ちょうど国際女性年の運動ともあいまって、各党が女性を比例名簿に登載し女性議員が多数進出した。一九九八年の参議院選挙で、社民党は男女交互の名簿で選挙に臨んだ。四月に行なわれた韓国総選挙はクオータ制の導入により女性の議員が倍増している。フィリピンもクオータ制が効果を上げている。日本においてもクオータ制は早急に検討すべきである。

3、参議院議員選挙にあたり、男女平等施策推進のため、貴党が公約とする主要政策は何ですか。

自 民	<p>男女平等を推進するとともに、少子化問題へもとりくむ施策として、子供を産み育てることに人々が喜びを感じ、安心して子育てができるようにするための社会環境等を整備します。</p> <p>育児休業期間の延長など仕事と家庭の両立支援、多様な保育サービス、小児救急医療の充実など子育て家庭を社会全体で応援する施策を実行します。</p>
民 主	<p>男性・女性の固定的な役割分担を前提とせず、すべての人の自分らしいライフスタイルの選択をサポートすること、ライフスタイルの多様化の基本に均等性、公平性を貫いたことなどを基本理念とし、①安心と公正の年金制度を構築する、②中立・簡素な税制を構築する、③男女の賃金格差をなくす、などといった政策の立案をすすめています。</p>
公 明	<p>①男女平等社会の土台作りに重要な学校教育にあっては、人権感覚に鋭敏な視点を</p>

公明	共産	社民
<p>導入し、性別にとらわれず、全ての児童・生徒の持つ個性を引き出せるよう人権教育を推進します。</p> <p>②選択的夫婦別姓の導入など民法を改正し、法の上の男女差別を撤廃します。また、女性裁判官、女性弁護士の割合が増加するよう啓蒙・啓発に努めます。</p> <p>③男女が、社会の対等なパートナーとしての多様な価値観、生き方を認め合う社会を築くために、議員や各種審議会委員をはじめ行政、企業、団体の指導的立場への女性の参加と登用を一層促進します。</p>	<p>「参議院選挙政策」(六月二日)において発表しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女雇用機会均等法を改正し、コース別雇用や妊娠・出産にともなう差別を禁止する。 ・同一労働同一賃金を徹底する。 ・パート労働法を改正し、均等待遇の原則、罰則を明記する。 ・全額国庫負担による最低保障年金制度を実現し、女性の無年金や日々の生活もまかなえない低年金を解決する。 ・選択的夫婦別姓制度の実現、再婚禁止期間や婚外子差別の是正。 ・DV法を生かし、国、地方自治体の責任による、施策、人員、施設の拡充。 ・女性差別撤廃条約・選択議定書、ILOパート条約などの国際条約の早期批准。 	<p>男女平等施策推進のための公約、重要政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選挙制度を見直し、クォータ制度の導入などで女性議員を増やす。

社 民

・雇用の平等を実現する。女性の賃金は男性に比べ六五・三％。女性のパートの賃金は女性正社員に比べ六六・四％。「同一価値労働同一賃金」「均等待遇」確保を目的とする労働法の整備は急を要している。

・女性、子どもへの暴力をなくす。「配偶者からの暴力防止法」「児童虐待禁止法」「子ども買春、子どもポルノ禁止法」をテコに暴力の防止に力を注ぐ。

・選択的夫婦別姓の導入、婚外子差別の是正など民法改正の実現。社会保障制度、税制など家族単位を個人単位に変え、一人ひとりが尊重される社会へ。

・女性の健康と自己決定権（リプロダクティブ・ヘルス＆ライツ）を保障する法律の制定。

4、憲法「改正」論議が高まってきており、貴党は憲法、とりわけ第九条の改正について賛成ですか、反対ですか。どのようにお考えですか。

自 民

憲法改正をする必要があると思います。

諸外国では、常に自国の憲法を見直し、その時代時代に合ったものにしようとする努力を重ね、各国は憲法改正を行なっています。

日本でも、新時代にふさわしい新たな憲法を求める国民的気運は、かつてない高まりをみせていますし、政治の責任として憲法改正に向けての行動を起こすことは必要なことです。

自 民	<p>わが党は、先の総選挙で政権公約において立党五〇周年を迎える平成一七年一月までに新しい憲法草案をつくることを国民に約束し、国民は大きな支持をもってこれに答应いただきました。われわれは、党を挙げて、新憲法の草案作成という公約を実行すべき議論を行なっています。</p> <p>われわれは、個人のプライバシーや環境など、新たな課題に対応するとともに、誰もが自ら誇りにし、国際社会から尊敬される「品格ある国家」をめざし、あるべき国家についての理念を明らかにします。</p> <p>また、平和主義と基本的人権などの諸原則を踏まえ、「公共」の概念を国民全体で共有し、健全な常識が社会を律する国家の建設をめざします。</p> <p>改正すべき条文としては、前文、第九条などすべてについて検討します。九条については、自衛隊の位置づけの明確化などです。</p>
民 主	<p>イラク問題をひとつの契機として、政府の解釈改憲により憲法の「空洞化」が進んでいます。このままでは、憲法に対する国民の信頼は決定的にそこなわれてしまいかねません。民主党は、歴史的反省に立ち、武力行使に対し、抑制的姿勢を基調とする憲法及び九条の「平和主義」を国民及び海外に表明するものとして引き継ぐべきだと考えています。</p>
公 明	<p>その上で、憲法に対する信頼を取り戻すためにも、憲法九条の中に、国連が行う集団安全保障との関係などを明記する必要があると考えます。</p> <p>公明党は現憲法が、戦後の日本の平和と安定・発展に寄与したことを高く評価し、国</p>

公明	<p>民主主義、恒久平和主義、基本的人権の保障の憲法三原則を堅持します。また、憲法第九条についてもこれを堅持し、時代の進展とともに喚起されている環境権やプライバシー権などを加える「加憲」という立場をとっています。</p> <p>現在、党内に設置した憲法調査会を中心に活発な論議を進めています。特に「二一世紀の日本をどうするか」との未来志向にたち、国民主権をより明確にする視点、国際貢献を進めるための安全保障の視点、人権を確立する視点、環境を重視する視点で議論を深めています。党として論点整理を行い、衆参両院の憲法調査会の論議も見据えながら、本年秋の党大会で見解をまとめる予定です。</p>
共産	<p>反対です。</p> <p>九条改定のねらいは、日本を集団的自衛権が行使できる国、「戦争する」国にすることです。そうなれば、アメリカが違法な戦争をするとき、日本も仲間になって戦争に参加することになってしまいます。憲法第九条は、戦争を許さないという世界の流れに合致したものであり、その立場での平和外交をすすめることこそ日本の責務です。絶対に改悪を許しません。</p>
社民	<p>反対です。イラク特措法、イラクへの自衛隊派遣などで、憲法違反を積み重ね、憲法が時代に合わなくなったという改憲派の言い分は本末転倒している。日本国憲法は二一世紀にこそ輝く。平和憲法の理念を世界にひろげ、軍事力によらない平和を実現していく。</p>



国民を 有事と おどし 幼児にし

二十何年前だったか、初めて沖縄各地の戦跡を訪れたとき、すばらしいガイドさんにめぐりあった。

感嘆の声をもらすと、「あの方が平和ガイドで有名な方」と披露された。それが糸数さんだった。

その糸数さんが、十年前から県会議員に。さぞよく通る美しいお声で的確な質問をしておられるのだろうと想像していた。

そして四年前。(あごろ沖縄ツア―)で、一段と風格を増された糸数

孫の凜ちゃん

りりしくたたかう

糸数けいこさん

(沖縄選挙区・革新無所属)



さんに感動した。(思い)と(行動)が、いつも一致している方――。

沖縄の長い間の夢だった革新系統一候補が、今度初めてまとまったのは糸数さんのお人柄と行動力の結実

だろう。あの美しい姿、美しいお声が議事堂に響く日のことを考えるだけでも、ワクワクする。

一九四七年読谷村生まれ。骨身に沁みる基地の重圧の中で、「もつとピ

ース もつとフェア」と、平和・環境・教育・女性問題を柱に、あらゆる分野で活動を続けて、みんなに慕われてきた糸数さん。

「いま、沖縄は健康ですか？」健康であつてほしいと願う

私の思いとは裏腹に、

海が傷み、生き物たちが泣き、

人びとの心や体までが

蝕まれているように思えます。

「なぜなのだろう」の先には

国を舵取りする政治がある。

いま私にできることは、

参院選に勝利して、

ウチナンチュのチムグクル(肝

心)を取り戻すこと。

『うまんちゅ がんばり』

(皆様お元気で！)

けいこさんの選挙ハガキです。

福島みずほさんは、ご存じ社民党の党首。超有名人。

護憲が争点の今度の選挙。「今度はみずほさん」の声がまたに満ちているとは言え、前回の参議院選では、田嶋陽子さんと大田昌秀さんを立て

て、比例は二人当選だけ。その実績の中で心労は、重いだろう。

それでもいつも明るいみずほさん。記者クラブの評判は絶賛ではないが、そのしろうつぼさが、市民には、かえって受けているのではないだろうか。

〈社民党〉を

新しい色に変える

福島みずほさん

(比例区・社民党)



家庭も学校も順境に育ち、「政治」の圈には染まらない人。いま一つインパクトがほしいという玄人筋の声もわからないではないが、先月の『あごらめいと』を読んだ方から、批評が届いた。

「テレビ討論などで観る福島さんには、

物たりなさがあつたが、この講演録は論旨明快、聡明さがよくわかった」と。

たしかに、迫力があるというよりは、見るからにカワイイみずほさん。女性には、その良さがよくわかるが、昔からの〈政治家〉に慣れた人たちには違

和感があるのだろう。

しかし、申しわけない言い方になるが、市民のあれほどの努力を裏切つて小選挙区制を導入した(旧社会党)には、しこりを持つ人も多い。みずほさんのしろうつぼさは、ある意味では救いでもあろう。〈護憲〉が争点の今度の選挙。一人で二千万票でも集めてほしい。

〈あごらめいと〉への入会は今年の初め。

『あごらめいと』三〇年記念の会に参加された折り、「あごらめいと」のしおりをお渡ししたら、「もつと早く入るべきでした」とおっしゃったのが今も耳に残っている。基本はフェミニズム。不戦・不差別・不暴力の〈あごらめいと〉は、福島さんの生き方と、一致していたのだろう。

その〈あごらめいと〉、どれほどの集票ができるかはわからないが、精いっぱいエールを送り続けよう。何よりも健康に気をつけて、たたかい抜いてくださいな。

——参議院選に立つ あごらめいと——

開戦前のイラクを一緒に訪れた衆議院議員の阿部知子さんが驚いていた。イラクの子どもたちが、「サダム万歳！」と歩くのを見て山内さんが泣いた、と。

その話を聞いて、「山内さんらし

い」と思った。山内さんが衆議院議員になったのは、その三年前のこと。大学を出てから帯広で二年、札幌で六年、先生をしていた方だ。行列など決して強制されない戦後の日本の子どもなどと思ひ浮かべて、思わず涙

ひと筋に生きる

やさしさと誠実さ

山内恵子さん

(社民党・北海道選挙区)



を……となつたのだろう。

先生としての誠実さを見込まれ、七四年から北海道教組旭川支部女性部長に。八二年、道教組女性部長、九八年、日教組女性部長と労働運動

の先頭に立ちながら、〈あごらめい〉を立ち上げ、〈あごら〉の中でもいけばん活気ある拠点の一つに育て上げた。

何をしてもし一懸命、いちずな方だ。

去年の衆議院選では、民主党との提携で、山内さんは地盤の旭川を民主党の候補にゆずり、悪戦苦闘の末、ご自身は議席を失った。

今度の参議院選は、北海道選挙区から。あの広い北海道を、また北から南、東から西まで、走り回っておられる。こんないちずな方こそ、議員に最適な方。いま最も重要な議案を、誰よりも誠実に研究し、深く考え、鋭く質問する山内さんの元気なお姿を、また永田町で見たい。

〈まじめさ〉の基になつているのは、子どもたちに涙する〈やさしさ〉。これこそ政治家の必須の要件だと思ふ。その〈やさしさ〉で、〈あごら〉にも、創立以来三二年間、関わり続けてくださっている。

今の心境を漢字一文字で表すと凛々。生まれ変わったら絵本作家になりたいという山内さん。フレーフレー!!

第 1 回 The 1st Tokyo Peace Film Festival

東京平和映画祭

Yes Peace!

へいわ

Tokyo Peace Film Festival 1

上映作品

マルティン・スコセッシの人生に敬意を込めて

<http://www.filmoteca.org/eng/one>

『ヒバクシャ～世界の終わりに』

(黒田ひとみ監督作品)

<http://www.gendai.co.jp/hibakusha>

14:10～

『ヤカオランの春』

(川崎けい子・中津真人監督作品)

<http://www.007.jp/so-net.ne.jp/movie>

15:45～

『教えられなかった戦争～第二の侵略』

(高岩仁監督作品)

17:15～

『テロリストは誰?』

(フランク・ドルリ編集作品)

日本語版: グローバルピースキャンペーン

<http://www.wa3w.com>

19:25～

『チベット・チベット』

(金森太郎こと金昇龍監督作品)

<http://www.ragos.com>

『スクリーンから平和を願う真実の声が聞こえる...』
テレビや映画館では観られない話題のドキュメンタリー映画6本、一挙公開!

www.wa3w.com/tpff

2004

2004年7月17日(土)

7.17

1 日鑑賞券

前売 2,500 円 (税込み)

当日 3,000 円 (税込み)

チケットのお求めは... チケットぴあ (Pコード: 550-490) または郵便振替でお申し込みください。

振込先: 東京平和映画祭 00140-7-648099 ※通信欄に枚数を明記のこと

2004年7月17日(土) 開場 9:00 開催時間 9:30～21:00

国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟大ホール 東京都渋谷区代々木神園町3番1号(小田急線参宮橋駅徒歩7分)

主 グローバルピースキャンペーン <http://www.peace2001.org> 担当: きくちゆみ yumik@fine.ocn.ne.jp FAX: 0470-97-1215
備 日本自立 (JJ) プロジェクト <http://www.jj-project.net> 担当: 浅野裕信 gaiaplanning@ybb.ne.jp TEL: 0479-62-1582

LOVE & PEACE

【協 力】ワールド・ピース・ナウ 地球平和公共ネットワーク ナマケモノ倶楽部 東金・山武平和を考える各界連絡会(事) 10.7ピース・ルネサンス 合同出版 経営美容室 若松 9条通(順不同)

イラク派兵に反対し憲法を生かす候補を

共同で当選させる懇談会の

経過と今後の展望

石河康国

今度の参院選は、平和憲法を護りぬけるかどうか、天下分け目のたたかい。そのゆくてを心配して、たくさんの方が昨年いろいろな話し合いを重ねました。そのひとつ、イラク派兵に反対し、憲法を生かす候補を共同で当選させる懇談会は、結果としては予定していた成果には至りませんでしたが、その話し合いは、たとえば広島選挙区で無所属・護憲共同候補(岡本三天氏)の擁立などへ結実しました。これは、その事務局からの経過報告です。

七月に実施される参院選挙に向け、国政選挙史上初の大胆な試みがされました。結果は不調に終わりましたが、このチャレンジは、大きな波紋と次の前進へのステップを作り出しました。

この試みには斎藤千代様をはじめ(あごろ)の関係者の皆様にもご尽力いただきました。

何やら真つ暗な世の中で、平和と人権を愛する多くの皆さんにすこしでも希望をもっていただけばと思ひ、お礼もかねてご報告致します。

平和憲法の運命を左右する七月参院選挙

ご承知のとおり参院選挙では比例区と選挙区の二つがあります。定数の少ない選挙区より比例区のほうが比較的に有権者の意思が反映しやすく、少数政党でも議席を獲得しやすい仕組みです。そうはいっても比例で一人当選するには約一〇〇万票必要です。A党が一九九万票、B党が九十九万票、C党が二九九万票を得たとすると、当選者はA党一人、B党〇人、C党二人です。いわゆる「死に票」はA党

九万票、B党九万票、C党九万票、合計二九万票（二議席分）となります。

つまり三党が共同で比例名簿を提出すれば「死に票」を最小限にとどめ、五人当選できるわけです。

さて国会に議席があつて憲法改悪に反対している党は、日本共産党、社民党などですが、改選議席は共産党八人、社民党三人、みどりの会議一人です。ただでもごく少数の護憲の政党が、ばらばらで選挙を闘つたらどうでしょう。ますます少数に追い込まれるのではないかと誰でも心配します。

しかも憲法をめぐる情勢は風雲急を告げています。改憲勢力は早ければ二〇〇七年には改憲のための国民投票を実施する構えです。イラクへの自衛隊派兵、有事法制の完成など着々と戦争のできる国家の既成事実が作られています。今通常国会では見送られそうですが、秋の臨時国会には「国民投票法案」が提出されます。

しかも、七月の参院選挙の後には、〇七年までは国政選挙はありません（解散総選挙があれば別）。このままでは有権者が権利を行使する暇もなく、護憲派には極めて不利な条件下で、改憲に向けての準備が急テンポで強行されます。

このように七月の参院選挙は憲法の将来を左右する決定的に重要な選挙であることは、おわかりいただけると思います。

そこで二八〇人の市民運動家、学者・文化人、自治体議員などが呼びかけ人となり（イラク派兵に反対し憲法を生かす共同候補擁立を求める懇談会）が、日本共産党、社会民主党、みどりの会議、新社会党、沖縄社会大衆党を対象に働きかけを進めてきました。その趣旨は概ね以下のようなものです。

呼びかける対象は、憲法改悪に反対するすべての党、グループ、個人とする。

共同で確認団体を作る呼びかけをするにあたって、基本的な一致点を「イラクからの自衛隊の撤兵、憲法を守り生かそう」という一点にしぼることとする。

「確認団体」で共同の比例選挙候補者名簿を提出する。各党はすでにそれぞれ準備している予定候補者および新たに立てる候補者をすべて比例共同名簿に登録し、市民運動団体や新たな政党が比例候補者を擁立すれば加えていく。

選挙のための「確認団体」の名称案を（平和憲法の会）とする。比例選挙の候補者は、「イラクからの自衛隊の撤兵、

憲法を守り生かそう」という共通スローガンのほかは、各政党・団体の独自政策を訴える。

当選後は原則として当選者で一つの国会会派を構成する。ただしこの会派は「イラクからの自衛隊の撤兵、憲法を守り生かそう」という点でのみ共同行動を義務づけるが、他はそれぞれの所属政党・団体の独自政策にしたがつてよい。候補者（当選者）は自己の所属政党を離党する必要はなく、既存政党はそれぞれ独自の活動は続ける（ただし「イラクからの自衛隊の撤兵、憲法を守り生かそう」との立場で日常の共同行動をとりくむのは当然）。

比例選挙の共同方式の利点

この方式は、日本の国政選挙史上では初めての試みで、ややわかりにくい点もあろうかと思われしますので、少し説明を加えます。

参院選挙の比例選挙は、政党（確認団体）名でも候補者名でも、どちらでも投票できます。

その党（確認団体）の当選者数は政党（確認団体）名と候補者名の総計で定まります。だれが当選者となるかは、

候補者名の得票の多い順にきまります。

また比例の選挙運動も、候補者個人の運動のほうが政党（確認団体）のそれより比重が大きいのです。

したがって、〈平和憲法の会〉にABCの三政党が参加して共同比例候補者名簿を構成した場合、次のような利点があります。

三政党とも自党所属候補者の当選に向け、競って全力を上げる。そのことが〈平和憲法の会〉の当選者総数を相乗効果でまず増やす。護憲勢力の「死に票」も最小限にできる。

当選者は個人名で多い順できまるから極めて公正で、「怨みっこなし」である。

有権者からすれば、その人が無党派であれば、候補者個人でなく〈平和憲法の会〉の名前で投票すればよい。憲法政策以外の政策を投票基準としたい人や既存政党支持者なら候補者個人（ポスター、チラシ、公報などで、それぞれ肩書と独自政策で政党所属がわかるようにしておく）を選択して投票すればよい。

もちろん制度上のさまざまな克服課題はあり、政党にとつては一定の制約が生じます。

だが多少の制約も、各党がのりこえて選挙共闘をくみ、共同して護憲派議席を増やす姿勢を示すことこそが、この間、護憲勢力がばらばらで後退してきたのに、あきらめて棄権したり、「死に票」をきらつて民主党に入れたりした人びとに、もう一度政治を変える現実的な方策と希望をもたらすのです。

改憲派たる自民党と公明党がまことに薄汚いやりかたで、隠然たる「選挙協力」をし、残念ながら見事に票をバータ―しあつてパーフェクトゲームを続けているのにくらべ、護憲派は一体何をしているのかという歯ぎしりが聞こえてくるだけに、多少の障害はあつても共同に努力すべきだというのが、「懇談会」に参加された皆さんの共通の気持ちでした。

未到の領域ですから、初めは「実現するのか」という不安や躊躇もありました。

しかし議論を重ねていくうちに、困難は百も承知だが、今この努力を精一杯しなければ、後世「おまえはあのとどこをしていたのか」と指弾されるだろうとの思いで一致するに至り、このとてつもないと思われる試みに乗り出すことになりました。

急速に盛り上がった〈懇談会〉

こうして第一回の懇談会は二月一六日に呼びかけ人二五人のもとに開催され、四都府県から三一人の方が参加し、出発しましたが、回を重ねるごとに第二回懇談会には五〇人、一都八府県、第三回懇談会には七〇人、一二都府県から参加と、うなぎのぼりに参加がふえました。呼びかけ人も、二月の二五人から二か月あまりで二八〇人へと、またたく間に増えました。また全国各地にもひろがりました。

三月二九日には「イラク派兵に反対し憲法を生かす共同候補擁立を、3・29集会」が中野ZEROホールで開催され、約四〇〇名。参加都道府県二二都道府県から参加がありました。参加者の所属団体（受付に記載されたもののみ）をあげれば、カトリック正義と平和協議会、憲法を生かす会、東京YWCA、沖縄社会大衆党、立川共同行動、新社会党、社会民主党、みどりの会議、ACT、三多摩フォーラム、ちえんじやばん、9プラス25改憲阻止市民の会、老人党、HOWS、NCC、平和を実現するキリスト者ネット、キリスト者政治連盟、九条の会・オーバー東京、日本友和会、市民の意見30の会、都障連、東部労組、NT

工関連労組、たんぼぼ舎、日本山妙法寺、アイム89、基地はいらない女たちの全国ネット、命どう宝ネット、働く障害者の会、保坂展人と元気印の会、子供と教科書を考える府中の会、協同未来、イラク違憲訴訟の会、あごら、アジア女性資料センター、ピースネット茨城、自立・共生めざす市民連帯、などでした。

スピーチは、前田知克(呼びかけ人代表)、糸井玲子(開会あいさつ)、布施哲也(経過報告)、伊藤成彦、國弘正雄、鈴木伶子、戎野弘、前田裕昭、松枝佳宏、小林一朗、島袋宗康、小森龍邦、橋本久雄、保坂展人、松本真紀子、星野ゆか、柳田真、内田雅敏(方針提起)、島田清作(閉会あいさつ)など。

このように、急速に盛り上がり、二月から公式・非公式に各政党との協議を重ねてきたのをふまえ、各政党(日本共産党、社会民主党、みどりの会、沖縄社会大衆党、新社会党)と詰めに入りました。

「懇談会」の最終報告では大詰めの協議経過については次のように述べられています。

1 四月八日午後、参議院会館で第一回の協議をおこないました。

参加は、みどりの会議から丸山、武田両氏、沖縄社会大衆党から島袋宗康委員長、新社会党から上野建一書記長、社民党から個人の資格で田英夫、保坂展人両氏。

(社民党からは当日は参加できないとの連絡をいただきました。)

2 懇談会側から「確認団体方式」の内容につき説明し、意見交換をしました。

席上、みどりの会議からは「私たちの比例名簿に皆さんも参加してほしい。提案については持ち帰って相談する」、新社会党からは「積極的に参加したい」との意見表明がありました。沖縄社会大衆党は沖縄選挙区候補者の枠組みの関係もあり、比例選挙にはかかわれない事情が説明され、社民党の田、保坂両氏からは「趣旨は賛成だが党は党名での得票を重視しているので参加は困難だろう」と説明されました。

そこで、あらためて、第二回目の協議の場を開催することとし、すべての政党各派に出席を要請するため、前田代表と内田事務局長の連名で正式の招請文を作成し、各党派に届けました。

3 四月一三日午後、参議院会館で第二回の協議をおこないました。

共産党からは「確認団体への参加はできない。護憲の共同行動は進める」との返事が寄せられました。

社民党は、返事はありませんが欠席。保坂展人さんが個人の資格で出席しました。

なお社民党は四月一〇日の全国大会で「確認団体には参加しない。選挙区での共同には対応する」という幹事長答弁を承認したと伝えられます。

また、みどりの会議から武田氏、新社会党から上野書記長が出席しましたが、みどりから「みどりの会議のアイデンティティーでいきたいので参加できない」との表明がありました。

結果は不調だが希望の芽も生まれました

こうして結果は調整不調に終わり「懇談会」は四月一日の第四回懇談会で次のような結論を出しました。

今次参院選挙での統一確認団体結成と候補者支援活動は断念します。「懇談会」は、「七月参院選挙での共同候補」

をめざし、またその趣旨で呼びかけ人、賛同人をおねがいしてきた以上、「懇談会」はひとまず休止します。

この間ご支援いただいた方に心からお礼申し上げ、お詫びいたします。

しかし解散ではありません。参院選挙後に再度集まって今後のことを相談したいと思います。せっかく知り合いになり、力を合わせようとした良心的な仲間と、今後ともお付き合いしたいと思います。

「懇談会」に参加した私たちは、今次参院選挙では、それぞれの立場で護憲の諸政党、候補者を支援し、憲法を生かす勢力の前進を期すこととします。

「懇談会」の趣旨に共鳴し、その成功を期す皆さんが各地で擁立しつつある選挙区の護憲共同候補は、この間の運動の財産です。各地の努力は「懇談会」への熱い期待にもとづいてひろがっていることを理解し、呼びかけ人はそれぞれの立場に応じて協力されるようお願いしました。

寄せられた賛同金は、「懇談会」の諸経費とさせていただきます。余剰金は再開の準備資金として前田知克の責任で、おあずかりしておきます。

そして「懇談会」としては「総括と展望」を、前田知克

呼びかけ人代表と内田雅敏事務局長の両弁護士の名前であきらかにしました。

「とりくみの趣旨」についてはすべての政党が賛意を表してくださいました。しかし最終的に断念せざるを得なかったのは、実に残念です。

これは立ち上がりが遅かったこと、政党がまだまだ情勢の厳しさをほんとうに理解していないこと、私たちの力が不足であったことによるものです。そして、参院選挙の結果への危惧をますます強めるものです。

解散総選挙を別にすれば、〇七年まで有権者が選挙権を行使する機会が失われ、圧倒的な改憲勢力のもとで憲法改悪に突き進もうとするでしょう。日本が私たちの怖れている社会へと変容する片鱗がすでに示されています。

次の国政選挙は、護憲勢力の本格的な選挙協力の必要がいつそう切迫するにちがいありません。

私たちの今回の努力は、護憲の国会議員を増やす第一歩をふみだしたにすぎません。しかしこの一歩は確実な成果を生んでいます。

二か月の取組みであつたにもかかわらず、三〇〇人近くの方が呼びかけ人となりました。働きかけた多くの団体、

個人からは、このような取組みを待っていたとの声が多く寄せられました。呼びかけは全国にひろがり、各地で「懇談会」と同様の枠組みで党派を越えたかたまりが生まれました。また数選挙区で、「懇談会」の呼びかけに連動し、選挙区共同候補を擁立しようとの努力がされ、実を結ぼうとしています。社民党が「選挙区においては共同の呼びかけに応じる」との方針を示し、いくつかの選挙区で具現されようとしていることも確認できます。

私たちの提案が今回は実をむすばなかったとはいえ、全国に志を同じくする人々の出会いをつくり、連帯を形成しました。この方法しかないという認識もひろがりました。

選挙区での共同の芽と「懇談会」の今後

その後の関連した動きを最後にご報告します。

選挙区の共同候補第一号は高知で決まりました。松岡ゆみ子さん（五五歳）で、郵便局ではたらき、労働運動、平和運動、日本婦人会議などで活躍してきた方です。「平和憲法21フォーラム」という市民団体を母体に、新社会党、社民党の推薦で闘います。兵庫では「9プラス25改憲阻止市

「次」に期待しましょう

斎藤千代

民の会」を母体に、やはり新社会党とみどりの会議、社民党有志などが共同で、原和美さん（前神戸市会議員）を擁立しました。さらに、広島では岡本三夫さん（広島修道大教授）が平和団体を母体とし、新社会党、社民党の推薦で立候補を決断。さらに大阪でもほぼ同様の枠組みで、相当に有力な人物に立候補を要請し、大詰めを迎えています。

国政選挙では市民と複数の護憲の政治勢力が共同で無所属候補を各地で擁立するのは、かつてないことです。このままでは自民・公明と民主という本質的な差のない「二大政党」体制がかたまるのではないかとという危機感が、もはや傍観者でいるわけにかぬとの行動になり、選挙まであと一か月足らずというせつぱつた段階にもかかわらず、多くの共同候補を生んでいるのだと思います。

これらの共同候補の成績が、次の大統一の大きなステップとなりうると確信します。

「懇談会」は参院選挙後に集まり、今後の方向について相談をしますが、その際、共同候補の経験と成果は、大きなエネルギーとして「懇談会」の展望を切り開くでしょう。ぜひ（あごろ）の皆さんの熱烈な応援をお願いします。

精一杯の努力からは必ず次への希望が生まれるものです。

バラバラに動いている（市民）が一つの力にならなければ勝味がない——それが、私たちをつき動かした原動力でした。

昨年から、奥平せい子さんを先頭に、できるかぎりの努力を続けました。共産党、社民党の党首または党幹部にもお目にかかりました。著名な学者・知識人にも……。

しかし（既成政党のカベ）は、強く大きく、市民の動きは、ユメに終わりました。

ただ、この動きの中で、沖縄では初めての革新連合候補として糸数けい子さんが立たれることになりましたし、高知の松岡ゆみ子さん、広島の岡本三夫さん、兵庫の原和美さんなど、（市民派革新候補）が立つことになりました。

比例区でも候補者を立てることができたら、当初の計画のように、護憲勢力の連合パワーで、今まで投票所に行かなかった人びとも掘り起こすことができ、革新系無党派から、実行力と多くの経験、知識をもつ人びとを国会に送りこむことができたのではないかと、かえすがえすも残念ですが、この失敗は次に生かしましょう。

内なるマイノリティのために

森澤 真理

(新潟日報 編集委員)

日本の新聞業界に近年、ちょっとしたセンセーションを巻き起こした人がいる。

東京新聞・特別報道部に所属する田原 牧さん(牧さんは社外での筆名)。

性別は男性だが、一昨年、心と体の性が一致しない性同一性障害をカミングアウトして、現在は髪を長く伸ばしている。データはないのだが、日本のプレスでは初めてのケースではないかと思う。二重の意味で、驚いた。面識のある相手だったからだ。田原さんが北朝鮮問題取材で新潟を訪れた際、居酒屋でイカ刺しをつまみにお酒を飲んだ記憶がある(大体、人と話すときは酒場にいるのだが)。パワフルで優秀な記者という印象だったが、そんな内面を抱えていたのか。

もうひとつは、私自身の問題だ。男女雇用機会均等法施行前の『超オヤジ社会』である新聞社に入社した世代として、マイノリティの立場は、存分に体験してきたつもりだった。性同一性障害問題を取材したこともある。でも、心のどこかで「自分の周りには関係ない」と考えていたことに気づかされた。日常的には、企業社会における多数派Ⅱ男性(体も心も)、少数派Ⅱ女性(同上)、という二項対立しか、頭になかったのである。

雑誌『タカスポ』(二〇〇四年六月十六日号)に田原さん本人の詳しいインタビューが掲載されている。

カミングアウトの際、一番心配だったのは、取材活動への影響だったという。「役人さんには離れた人が多くて、いわゆるアウトロー的な人は意に介さない人が多かった」というのは、さもありなんだが、職場の部会で説明したら、「シーンとして」しまったそうだ。

マイノリティや弱者への視点を大切に、という言葉は、大半の新聞社で座右の銘のようにになっている。だが、現実には働く記者たちの人間像は、外から見れば、実は驚くほどステレオタイプである。一流大学卒で、その多くが男性。身体は頑健で、性的志向はヘテロセクシュアルに属する。コミュ

ニケーション能力が比較的ある、などなど。つまり、メジャー・リーグなのだ。

均等法施行以来、むろん、女性記者の数も増えている。日本新聞協会によれば、同協会所属の社で、女性が記者に占める割合は一九九九年で一割を越え、二〇〇三年で現在で二四五八人、一一・五%になった。だが、性別が異なるだけで、社会的には「強者」である層が圧倒的だったのではないかという気がする。「身内」から「性的マイノリティである」という報告を受けた職場が沈黙したのは、一種の思考停止状態に陥ってしまったのだろう。

イラクの人質事件におけるバッシングに象徴されるように、最近、世間やお上が志向する枠と異なる動きをした少数派への攻撃が目立つ。佐藤俊樹は『不平等社会日本』（二〇〇〇年、中公新書）の中で、専門職や企業や企業や企業に就く知識エリートとの階級相続が戦前以上に強まっており、企業や学校の現場から責任感を失わせ、社会的閉塞感が起きていると分析している。ストレスのはけ口が、「お上」ではなく、排除しやすいマイノリティに向かう構図。自分がいじめられないために、誰かをスケープゴートに選び、総掛かりでいじめていく教室の風景にも重なる。

「マイノリティや弱者への視点」を内なるものにしていくには、どうすればいいのか。

多くの人々がうすうす気づいているように、自分が多数派の側にいる、という認識は、実は幻想にすぎない。頑健な肉体や頭脳を持つていても加齢や病気には勝てない。会社が倒産すれば地位や肩書きは一瞬で消えてしまう。性的な境界も固定的ではない。いつ自分がいじめられる側に回るのか、ピクピクしているより、少数派であつても生きやすい社会をつくっていくほうがお得なのではないか。

女性であることは、ものを書く上で「私」の大切な個性だ。でも、それだけに寄りかからず、さまざまな声が聞こえるよう、感覚をフルオープンにしていこうと思う。それまでの「常識」と異なるものを受け入れるのはしんどいけれど、「世界」が豊かになるのは楽しいことのはずだから。

語りかけたいあなたへ 61

大里知子

雨

仙台の大学に入って帰省していた姪の明子が、買物に出かけた途中、雨に降られて「ぬれちゃった」と言つて歸つてきた。

その明子の姿を見ていたら、私の若いころ橋幸夫が歌つて流行した『雨の中の二人』という、歌謡曲の一節「雨が小粒の真珠なら、ぬれていこうよどこまでも」が浮かんできて、思わず口ずさみたくなるような衝動にかられてしまった。それは、明子に真珠の雨がびったりでよく似合う、清純な初々しさを感じたからではないだろうか。

今、彼女は二十歳。たとえ雨であっても風であっても、どんなものでも、サマになるし形になつてしまうから、つくづく若いということはなにもものにも替えがたいと思う。

私も若いときは〈雨の日〉が憂鬱とは思わず、むしろ雨の音を聞いたり雨あしを見つめていると、不思議に気持ちが落ち着いて、本を読んだり、考えごとをしたりしたものだ。ところが年齢を重ねるごとに、低気圧になって雨に降られると身体の具合が悪くなり、とても考えことなどできるゆとりがなくなってきた。

それから、四階の住人になって十五年。鉄骨の建物にサッシの窓わくなので、外の音が遮断される代わりに、雨の音も全然聞こえなくなってしまった。

雨の音だけではなく、私が最も好んで見ていた雨が降ってできた水溜りに、また雨が降ると小さくいくつも波紋を描く様子も見られなくなり、寂しく残念に思ってた。

いつでも気軽にどこにでも歩いて行かれる人は、何階に住んでもかまわないけれど、車いすを使用するものは、いくらエレベーターがあっても移動そのものが困難なので、できるだけ土に近いところ、木の近くに住むべきだというのが、四階に住んでみて痛切に感じられる。もつとはつきり言わせてもらえば、身体の不自由な人は平家の住宅に住むことが一番大事で重要なことのように思う。

(Eメールアドレス fuusen@abeam.ocn.ne.jp)

ら室 ご書 あ読

「物語

日本国憲法第九条」

戦争と軍隊のない世界へ

伊藤成彦著

(影書房)

憲法の解説書というと、とかく難しい、堅いというイメージをもつけれど、本書は、「物語・日本国憲法第九条」というように、憲法九条にまつわる前史、それを作り上げた人びとの闘い、戦後の九条空洞化の歴史、そして現在の危機について、〈物語り〉のようにわかり

やすくのべられている。

そして、とても文学的香りのする憲法解説書でもある。

そこで紹介されている栗原貞子さんの詩に、私はこころを揺り動かされた。それは憲法を考えるときの人間のこころを教えている。

ヒロシマというとき

栗原 貞子

(ヒロシマ)というとき

(ああ ヒロシマ)と

やさしくこたえてくれるだろうか

(ヒロシマ)といえば(パールハーバー)

(ヒロシマ)といえば(南京虐殺)

(ヒロシマ)といえば 女や子供を

壕のなかにとじこめ

ガソリンをかけて焼いたマニラの火刑

(ヒロシマ)といえば

血と炎のこだまが 返ってくるのだ

(ヒロシマ)といえば

(ああ ヒロシマ)とやさしくは

返ってこない

アジアの国々の死者たちや無告の民が
いつせいに犯されたものの怒りを
噴き出すのだ

(ヒロシマ)といえば

(ああ ヒロシマ)と

やさしくかえってくるためには

捨てた筈の武器を ほんとうに

捨てねばならない

異国の基地を撤去せねばならない

その日までヒロシマは

残酷と不信のいがい都市だ

私たちは潜在する放射能に

灼かれるパリアだ

(ヒロシマ)といえば

(ああ ヒロシマ)と

やさしくこたえがかえって来るためには

わたしたちは

わたしたちの汚れた手を
きよめねばならない

社会思想史を専門とする伊藤成彦さんは、憲法九条の神髄である反戦・非武装の思想を、民衆の視点から民衆の歴史としてわかりやすく述べている。戦争と軍隊のない世界を求めて、多くの先達たちが知恵を集め、民衆の力をあわせてつくってきた歴史を私たちは知ることができる。

明治維新から生まれた自由民権運動のなかで、いくつかの草の根憲法草案が生まれたが、伊藤博文たちは、この運動を弾圧し、憲法論議を禁止した。政府の暴政に抗議して日本の各地で立ち上がった民衆の抵抗を、政府は弾圧し自由民権運動は分断され衰退した。今秋から映画上映される秩父困民党「草の乱」も、「圧政を変じて良政に改め、自由の世界として人民を安楽ならしむべし」と貧困にあえぐ民衆が立ち

上がった歴史の物語だ。軍備増強を急ぎ、デフレ、増税で民衆を苦しめた明治政府に対して、農民たちは、家族のため、そして苛政に痛めつけられる仲間たちのために、巨大な権力に命がけで立ち向かった。しかしその抵抗の闘いは、暴徒といわれ、顧みられることもなく一二〇年経った今も、汚名は晴らされていない。しかしこうした先達たちの長い歴史が、憲法九条の短い文章の中に凝縮されている。

小泉首相が米ジョージア州のシーアランドでのサミットに行つて、多国籍軍への参加表明をしたことは、大義なきイラク戦争への加担をさらに一歩すすめた戦争国家への道だ。こうして自民党は、平和憲法を変えるための草案を作成し、憲法と並ぶ教育基本法の改定をもうちだした。

大逆事件で有名な幸徳秋水は、「帝国主義」の冒頭で、次のようにのべてい

る。
「帝国主義は所謂愛国心を經となし、所謂軍国主義を緯となして、以て織り成せるの政策に非ずや」。

このことばは、現在にも通じている。ブッシューの〈帝国〉の戦争に付き従つて自衛隊を派兵し、憲法九条を変えて戦争をする国・日本。愛国心を育てるとして教育基本法を変えようとしている日本。君が代を歌わない教師を処分し、日の丸掲揚を強制する日本。

こんなとき私たちは、もう一度平和憲法の原点に立ち戻り、民衆の歴史としてつくられてきた憲法九条の核心を学ぶことが大切だと思う。

改憲派の人たちは、「押しつけ憲法」などと批判しているが、本書を読めばその成立史からみても「押しつけ」ではないことがわかる。たくさんさんの発見ができる本書を、いま、ぜひ読んでほしい。

(木瀬慶子)
(四六判二六九ページ 二四〇〇円)

（人権を考えるウナイの会と金武・さん 杣山所訟 中家）

成定洋子

町の六〇％が基地

沖繩県国頭郡金武町は、在沖繩米軍基地のうち嘉手納基地に次いで二番目に大きいキャンプ・ハンセンに、町面積の約六〇%を占められている。

金武・杣山訴訟の焦点となっているのは、個人所有の土地と同様、米軍に接収されたままの、金武町内の字が所有する共有地・杣山の一部である。杣山とは、一八九九年に始まる明治政府の土地整理事業によって、人びとの生活の糧であつた山林が国有化された後、一九〇六年、再び住民がお金を出し合つて政府から買い戻し（杣山の払い下げ）、各字が所有し管理するようになった共有地である。

當時、人びとは、女性・男性にかかわらず、集落から四半口以上も離れた杣山で、朝八時ごろから一日がかりで木を植えたり、草刈りをしたり、松の実を拾ったり、種を集めたりして、杣山を守る重労働を行なってきた。また、同時に杣山は、子どもの頃から、自由に出入りしてヤマモモの実を採つ

て食べたりする遊びの場でもあった。

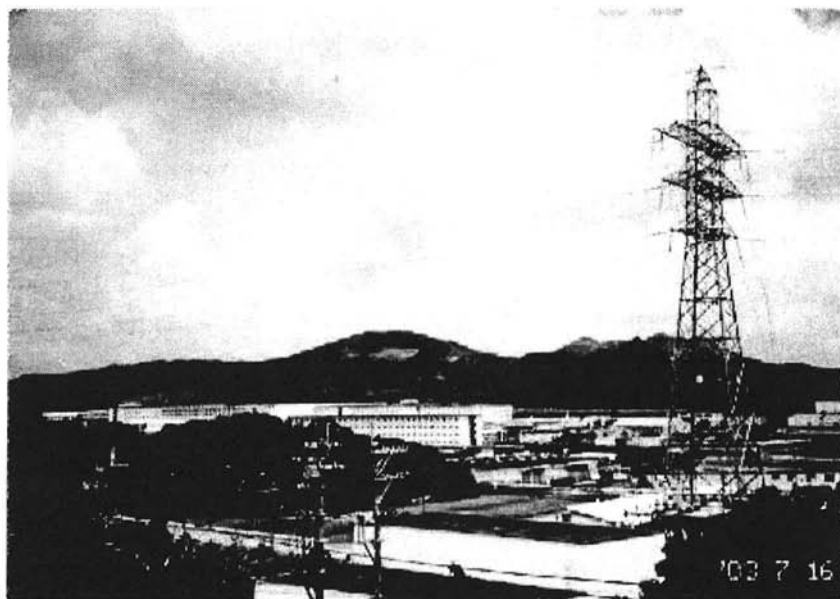
一九四五年、沖縄戦の最中、米軍は金武に基地を建設し始めた。

土地接収によって、柚山や自分の土地を奪われた人びとは、土地を奪われただけでなく、基地と隣接するがために起こる様々な事故や事件と関わり合う生活を余儀なくされてきた。

「男性」にだけ軍用地料が払われる仕組み

現在、米軍に軍用地として接収された金武区の杣山を管理する団体（金武部落民会）には、日本政府から年間約五億円の軍用地料が支払われ、そのうち約三億円が会員に分配されている。しかし、金武部落民会の正会員は、規定により一九〇六年払い下げ当時の住民の「男性」子孫に限定されているため、「女性」子孫は正会員となることができず、年間六〇万円の保証金を受け取ることもできない。

女性は、準会員にしかなることができない。しかも準会員資格は、五〇歳以上の女性のうち、「未婚」か、「他の地区出身者と結婚した後、離婚をして旧姓を名乗り、金武区に居住する」場合にのみ認められている。



金武町金武区よりキャンプ・ハンセンと杣山を望む

米軍による「被害」は、性別に関わりなく引き受けざるを得ないにもかかわらず、基地に奪われた土地のための軍用地料は、性別によって差別化された形で分配されてきたのである。

「女性にも使用量を」と提訴

（入権を考えるウナイの会）（以下、〈ウナイの会〉。ウナイとは、男兄弟からみた姉妹をいう）は、五四歳から九二歳までの女性たち二六人で結成され、全員が金武区出身で、他地区の男性と結婚後も金武区内に住んでいる。

〈ウナイの会〉は、金武部落民会に対し、「軍用地料の配分の権利を男性子孫だけに限定するのは不平等である」として、女性も正会員としての権利を持つことができるよう、一九九八年から署名活動や要請活動を行ってきた。

しかし、このような〈ウナイの会〉の活動に対し、金武部落民会は、「慣習」を楯に、譲る姿勢を見せようとはしなかった。そこで、二〇〇二年二月二日、〈ウナイの会〉は、「金武部落民会が正会員の資格を男性子孫に限るのは、憲法二四条に定められた男女平等の原則に反する」などとして、原告の正会員としての地位確認と、過去一〇年間の補償金（約八千万円）の支払いを求め、那覇地裁に提訴するに至った。

数回の和解勧告を経て、結局、〇三年一月一九日の判決において、「ウナイの会」・原告側の全面勝訴となった。

しかしながら、「ウナイの会」の喜びも束の間、金武部落民会は一審を不服として控訴し、現在、福岡高裁・那覇支部において控訴審が行われている。

この訴訟は、単なる一地域における軍用地料の利権争いではない。「ウナイの会」やその他の女性たちが軍用地料の配分から排除されているシステムは、「慣習」に根差したものでなく、戦後、軍用地料をめぐる権力関係のなかで新しく生み出されたものである。主体である男性が、その性の対象として女性を客体化することによって作り出され、維持されてきたのが、男性中心組織である金武部落民会である。

一見、利権を享受しているかのようにみえる正会員の妻、あるいは準会員の女性たちも、結局は、男性中心組織に客体化され、男性に付随する存在として認識されているにすぎない。だからこそ、「ウナイの会」はあくまで正会員の地位確認を求めているのだ。

「ウナイの会」が欲するのは、名譽男性としての利権ではない。彼女らが目指しているのは、「金武部落民会」の運営方針等に関わる会議に自らも参加し、「金武部落民会」自体を

脱男性化していくことである。

狭い地域で法に訴えるに至った勇氣は計り知れない。

この勇氣ある訴訟は、閉ざされがちな、軍用地料に関わる男性化された組織や、軍用地料のために差別化されてきた、女性と男性の関係を見直すことを私たちに教えてくれる。

裁判経緯

二〇〇二年二月二日 「ウナイの会」が金武部落民会を

那覇地裁に提訴

二〇〇三年一月一九日 「ウナイの会」が全面勝訴

二〇〇三年二月二日 金武部落民会が福岡高等裁判所・

那覇支部に控訴

また、日米関係のひずみによって生まれた（米軍基地）という存在が、どのように沖縄のひとつの地域に問題を作り出してきたのか、本土の人間こそ考えなければならないことも示唆しているのである。

* ぜひ控訴審の傍聴をお願いします。

* 第三回以降の控訴審日程は uinainokai@hotmail.comへお問い合わせを。「ウナイの会を支援する会」からご連絡いたします。（エジンバラ大学・大学院生 成定洋子）

政府、多国籍軍参加を正式決定

小泉首相はブッシュ大統領に「多国籍軍への参加」を、閣議も経ずに表明。各方面から多くの非難があったにもかかわらず、六月一八日午前の閣議で、「イラク特措法施行令に国連安保理決議1546を加えることなど」で参加を決定した。「自衛隊は我が国の主體的な判断の下に、我が国の指揮に従い、人道復興支援等を行うことは、米英両国政府と我が国との間で了解に達していると明記した」と事後報告したが、現実には戦闘が起ったとき、日本だけが単独行動をとりうるのか。政府は、さすがに「参加」という言葉は避け、「多国籍軍の中で今後とも活動する」と表現したが、実質はもちろん「参加」。政府に遠慮がちなマスメディアも、これには「強引で拙速」と批判した。

この軽率妄動が、参議院選で小泉マイナス効果となることを祈る市民も多い。

さまざまな問題を露出した〈年金騒動〉

年金問題を討議するなかで、閣僚級の年金未払いがぞくぞく発覚。ついに民主党、菅党首の辞任にまで発展。そのなかで、核心の問題は不問のまま、野党の質疑も、多数の力で無法に打ち切り、新年金法が成立した。

〈年金〉については、むしろ女性の側から、「主婦は料金を払いで受給資格を得る」ことや、男女の賃金の格差が、「そのまま年金格差になる」ことなど、早くから疑問が投げかけられていたが、こういう本質的な問題は国会では、一顧だにされなかった。

「年金の納付額（徴収額）はふえ、受取額は減らす」という重大な決定が、ほとんど論議のないまま多数決で決定してしまった事実は、今度の参議院選で、どのように反映されるだろうか。

年金財政をいちじるしく圧迫した社会保険庁の「使いっぱなし状況」にも、ほとんどメスが入らないままに終わつたが、たとえば千葉県白井市にある壮大な社会保険大学校は、宿泊室三〇〇室。実質的には社会保険庁職員の遊休施設。ゴルフ練習場まであり、ゴルフのクラブやボールまでが、社会保険料として集めた拠出金で購入されている。同様な例は各地であり、全国で五兆六〇〇〇億円の無駄づかいが指摘されている。

これらの糾明や、年金運用のための証券会社への官僚の天下りなど、追及しなければならないことは山積しており、参院選後の国会は、また「年金」が主要な議題になるだろう。

出生率1・29のショック

年金問題でかまびすしい折から、出生率が1・29に落ちたことが、年金法が成立したあとに発表され、物議をかもしている。

国の出生率の先行指標とされている東京都の出生率は、0・998、すでに1・0を切つたのに、国は、1・39

を想定していた。予測の甘さという声が出るとともに1・2を切る日が近いという予測も新たな話題になっている。

もともと英・独・仏・伊・西など、西欧諸国では早くから少子化が進んでおり、お隣の韓国は1・17と、日本以下の状況。この状況を日本政府が読みあやまつたのは、女性の状況の把握が不十分だったから。データに基づかず、

「女性の就業率の増加が出産率の低下となる」という情報流されているが、内閣府男女共同参画局の発表によると、共働き家庭のほうが出産率が高いというのが現実。（このデータは次号に掲載予定）

三菱欠陥車事故隠し一四〇件

海外にも広く名を知られている《三菱》ブランド。その一つ、三菱自動車工業の欠陥車事故は、この一〇年に一四〇件もあつたことが判明。

〇二年一月、横浜市の主婦が、はずれたタイヤの下敷きとなり死亡、車体の欠陥として訴え出たのに、「整備不良」でごまかし、人身事故、物損事故を公表せず、リコールを行わずに点検でごまかすなど、会社ぐるみの「欠陥隠

し」がついに露頭。元社長など幹部は「傷害致死」に問われることに。

ニュージールランドでは、三菱の中古車をスクールバスに使用していたが、「大切な子どもが奪われてはならない」と、三菱製の使用を全部中止した。世界各地の（日本製品）の評価にも大きく響きそう。

有事関連七法が成立

今国会では、一一七件もの法律が、年金法以外は国民の耳目にはほとんどふれないまま成立した。

有事の際の国民の非難や救援の手続きを定めた国民保護法など日本の〈有事〉やテロ対策として政府がすすめてきた〈有事七法〉は、社・共が厳しく批判してきたが、六月一四日、参院本会議で自・公・民三党の賛成で可決成立。〈戦争への道〉は、また近くなった。

佐世保市小学生事件

第一報を聞いた人は、おそらくほとんどが耳を疑った衝

撃的な殺人事件。対策として、さつそく各校のＩＴ授業の見直しなどが始まったが、深い原因は、イラク侵略戦争に加担し、一万人を超えるイラク市民の死者を出しながら、さらに自衛隊の参戦延長を約束する日本国のありように基づいていることは、誰の目にも明らか。今度の選挙で審判が下されるだろう。

学者・文化人で〈九条の会〉設立

着々とすすめられる派兵。なしくずしの改憲。その歯止めをと、井上ひさし、梅原猛、大江健三郎、奥平康弘、小田実、加藤周一、澤地久枝、鶴見俊輔、三木睦子さんの九人が〈九条の会〉を立ち上げ、六月一〇日、記者会見。

「憲法一般ではなく〈危機的状況にある九条〉に焦点を絞り、ネットワークを強化したい」（加藤氏）、「憲法は常に自分の土台だった。この会が九条を守ろうとする人たちの翠点（すいてん）になりたい」（大江氏）、「焦点は九条」とキチツと浮かび上がらせたい」（奥平氏）、「西宮の集会で『今でも憲法は旬』と書かれていたが、世界が『紛争は武力では制圧できない』と認めた今こそ旬。九条は世

界平和宣言。ポジティブに使うべき」(小田氏)、「改憲を止めるためには万葉集・古事記までさかのぼって日本人の心を掘り起こすことが必要。女の協力がなければ止められない。(女と、女に引つ張られる男)の運動を期待したい」(鶴見氏)と、それぞれ、ユニークな見解を発表。「解釈改憲でイラクに派兵したこの国は、どこまで行くかわからない」と、会を立ち上げずにはいられなかった心情を吐露した。

「日の丸・君が代」押し付け拒否で PTA会長に圧力

東京都・中野区の小学校の入学式で、都教委の「日の丸・君が代」反対教職員一七名の処分を批判したPTA会長、高橋 聰氏の発言に、PTA役員会が「役員の総意と思われるでは困る」と批判。高橋氏は辞意を表明した。

高橋氏はその後、「今後、個人で独走しない。事情を会員全員に文書で説明して個人で責任を持つ」と翻意、その旨を校長に申し出たが、校長は〈学校評議会〉を招集、高橋さんが再度辞表を書かざるを得ないような状況に追いこ

んだ。

伝え聞いた保護者やOBは、六月五日、〈高橋さんを励ますトーク&ライブ〉の会を開き、校長に質問状を出すことを決定。保護者たちは「評議会」は、地元有力者の集まり。それが圧力をかけるのは戦前の隣組と同じ。日本は戦争と監視の時代に入った」と、各方面に訴え続けている。

運営に苦しみ保護観察行政

殺人を犯しても罰されない少年少女。「保護観察」が一段と重要視される時代になったが、保護観察官・保護司の要員不足が問題になっている。

少年が面接の約束を守らない、家族が訪問を拒否する、無断で転居するなどで、係官不足で対応できないのが現状。特に注目を集めているのは、少年の再犯の増加と、保護司の人材確保。

保護観察期間中に再び非行・犯罪で処分を受けた割合は、九六年の一四・四％から年々増え続け、〇二年は一九・二％に。保護観察が十分に行われれば再犯率は低くなるが、問題は保護司の高齢化。高齢化で少年との意思疎通が困難

なのでは」の声を受けて、九九年、定年制を新設、「新任の際は六五歳未満、再任は七六歳未満」を〇四年には完全実施すると定めた。

保護監察所に勤務する保護監察官は国家公務員だが、監察所を出た少年に毎月一回面接して状況を把握し、相談にのったり助言して更正を助ける保護司は、地域の顔役が一種の名誉職として引き受ける例が多い。法相が任命し、非常勤の国家公務員の身分はあるが、無給で、交通費など実費の全額または一部を支給されるだけ。現在保護観察官は全国で約六三〇人。保護司は、定数は、五万二五〇〇人だが実数は四万九二〇〇人。定数に満たないことも問題。

沖縄で「沖縄の歴史の地域教科書」作成の動き

社会科の教科書には、歴史の面でも地理の面でも、沖縄の記述は、ほとんどない。あつても記述の誤りがある。

たとえば検定済み教科書でも、沖縄戦を「日本国内で唯一の地上戦」と記述しているが、サイパンも硫黄島も、当時の日本領土だ。「唯一の」と書く以上に、どのように悲惨な戦争が行われ、その結果として今も米軍基地の七五%

が沖縄に集中していることなどの記述は、ほとんどない。これを糺そうと、沖縄大学教育学部の高嶋信欣教授（社会教育学）と同学部附属小中学校の教諭一六人のチームで、歴史や公民の「地域版教科書」づくりを始めた。

出来上がったら出版し、沖縄を訪れる修学旅行の学習教材や観光客の資料にする。

あえて沖縄独自の教科書をつくるのは、沖縄に関する情報の絶対的な不足があることが第一だが、生徒にとつては、その地域の歴史や生活習慣に根ざした教科書のほうが親しみやすい、「全国各地で地域版教科書をつくるきっかけになれば……」というのも、ねらいの一つ。「各地で地域版教育をつくるきっかけに……」と、夢は大きい。

ブルサーマル再開に交付金

ウラン燃料用に設計された普通の原発（軽水炉）でブルトニウム燃料（MOX燃料）を燃やす（ブルサーマル）は、高速増殖炉もんじゅの事故以来、ブルトニウム利用の中心に位置づけられたが、異常が起きた時に制御棒が働きにくくなり暴走する危険が指摘され、一時、頓挫していた。

しかし関西電力は、西川・福井県知事の諒承を得て、海外のMOX燃料加工メーカーと契約、二〇〇八年までに高浜原発三、四号機でプルサーマルを実施する計画を打ち出した。経済産業省も、プルサーマルを受け入れる自治体に交付金を上積みすることを議決、原発反対の市民は、西川誠知事あてに、メールやハガキで抗議を続けている。

又エック理事長に神田道子さん

国立女性教育会館理事長には、一九九五年から大野曜さんが就任（当時は館長と呼ばれた）。図書室の総目録整備、各種研修会の充実など、めざましいお仕事ぶりだったが、三月末で退任、神田道子さんが後任に。神田さんは二〇〇〇年に女性初の総合大学総長として東洋大学総長に就任。〇三年総長を退いて教授に戻られた方。

夫婦別姓法案の提出断念

夫婦別姓推進に熱心な革新系政党と対照的に、自民党は、夫婦別姓に反対だが、一部の推進派委員でつくる〈例外的

に夫婦の別姓を実現させる会〉（笹川晃会長）は、夫婦別姓を認める民法改正案を練っていたが、四月二日、今国会での提出をやめた。党内の「家族制度の崩壊を招く」「参院選に悪影響」などの反対論の大きさに断念したもの。

低レベル放射性廃棄物の再利用

近い将来、低レベル放射性廃棄物でつくられた日用品、家電製品や住宅建材に囲まれて暮らすことになりそうだ。総合資源エネルギー調査会小委員会は、低レベル放射性汚染ごみを産業廃棄物として取り扱える骨子案をまとめた。ズボンの裾を足に合わせて切り捨てるように、放射能レベルの一定値以下を切り捨てる「スリ切り」（『あごろ』二八六号五一ページ参照）を産業廃棄物なみに処分できるようにする。原子力委員会はこのを「クリアランス」と称する。

国は事業者の放射能線測定や対象選定の体制をまず点検。敷地外搬出前にも、抜き取り検査を行うが、正しい放射能測定はとうてい期待できないので心配されている。フライパンやおもちゃにまで再利用され、手にする日が来るかも。

会と催し



若さにあふれた憲法フェスティバル

〈憲法フェスティバル〉も、ことしで一八回。

五月一五日、会場は、旧陸軍ゆかりの九段会館ながら、ことはピースポートなど若者中心のNGOが企画の中心に入つて、イキのいい集会になりました。

オーブニングの映像が消えると同時に、ギター片手に、きたがわてつさんが登場。「前文」「九条」等、憲法への熱い思いが会場いっぱいに広がりました。

続いて、イコッポヨ（かわいい）朝鮮学校の舞い。黄と青と赤のチョゴリに包まれて、太鼓や鉦を鳴らしながら、優雅に、しなやかに……。平和憲法は、朝鮮や韓国への謝罪もこめてつくられたことを改めて思い出しました。

高橋哲哉さんは、近現代の日本をめぐる政治的状況を語りながら、いまの日本の危機を、いつもながらの明晰な論調で語りかけ、かつてヨーロッパで提唱された戦争防止法案（戦争をす

る場合は、元首・政治家・教職者など、権力者から戦場に赴くという法律）など、〈戦い方〉のヒントも伝授。

石坂啓さんは、漫画家の視点で「小泉が着々とつくっている戦争できる国家体制」を、チャップリンの文案を読みながら、例の毒舌プラスユーモアで、深く、鋭く……。笑いながら、みんなを考えこませました。

伊藤千尋さんは、「右傾化を心配する必要はない。エネルギーシユな市民がどんどん増えている」と、イキのいい、文字どおりの〈熱井〉で、みんなを勇気づけました。

イラク勾留、〈自己責任〉でおなじみの郡山総一郎さんの登場には、ひととき大きな拍手が。

「僕の責任は、イラクで写真をたくさん撮り、その写真の意味をみんなに知らせることだ」に、さらに大きな拍手……。

おしゃれな〈九条Tシャツ〉（アラビア語・英語・スペイン語で九条が書いてあるシャツ）で躍り出た〈ナマケモノ倶楽部〉は、「9」を書いたおそろいの服で五〇人ほどの若者が渋谷のスクランブル交差点を占拠したイベントの映像を流し、「これか

ら世の中変わるよナ」のインパクトを。

おなじみの《ピースボート》も、世界を旅する映像で、「理解し合うことが平和の第一歩」を、なっとくさせ……。ともかく若さあふれる楽しい集いでした。

これで参議院選で護憲派が多数を占めて「勝利パーティー」なんてことになったらスゴイんだけどなア。

(り)

東京・学校に自由の風を！

「日の丸・君が代」で集う二二〇〇人

石原都政下、「日の丸・君が代」を掲げる都教委の締めつけは、大量の処分教員を生み、ますますつのる勢い。

六月二日、「もうだまっていられない」と、東京・中野のZEROホールに、二二四団体、二二〇〇人が集まった。処分された教員はもとより、保護者も、卒業生も、「だまっていれば、エスカレートする一方」と、噴きあげる憤りを、腹の底から絞りだすような声で強く訴えた。

署名を届けて都議会を傍聴した《都教委通達の再検討を求める会》の丸浜江里子さんは、「君が代で起立しない生徒が多かった高校を非難した議員に対し、横山教育長は、一八

イ、おつしやるとおりでございます』と、我が意を得たと言わんばかりの対応。呆れ果てた。10・23通達と教職員の処分の撤回を求める陳情を」と呼びかけ、「都教委の暴走を止めるためのネットワークづくり」も訴えた。

「石原都政の横暴は、三〇〇万票を与えた都民の側にも責任がある。参議院選挙でまっとうな人びとを当選させて、流れを変えよう」と、場内には熱い思いがあふれた。

露骨な圧力がこれほどまかり通っているのは東京だけだろうか。治安維持法下の《戦前》を思わせるような現状は、参議院選で、アツと驚くような結果を見せる以外、変革の方法は、なさそうだ。

(S)

地域・世界の両面から

国民国家の縛りを脱していく道筋を

花崎皋平さん講演会「地域から政治と文化を考える」

二〇代の終わりにお話を聞き、「反権威」について強い印象を受けた花崎さん（さっばろ自由学校「遊共同代表」を鹿児島市にお招きし、二月二八日（土）、「地域から政治・文化を考える」をテーマに講演していただいた。

時代を検証し、地域を展望するお話に深い感銘を受けたので、その概要を紹介する。

1 歴史の見取り図

一九六八、六九年が、世界的にも日本に関しても、思想と社会的実践の質的転換期であった。社会変革運動の目標と担い手の転換をもたらした。

それまでのセツトは、国家権力を握って社会主義の政府を作るという目標、それに向けて労働組合を支えに社会主義政党が国民運動を仕切るというものであった。

この枠組みでは、無党派の市民・農民・地域住民は、同伴者・支援者として位置づけられていた。このセツトが疑われ、弱まり、前衛としての共産党への反逆、権威への挑戦が始まる。

一九六八年、チェコ事件、ベトナム反戦運動高揚と大学闘争、学生革命、文化大革命の波及（ヨーロッパ）。人権、思想信条の自由、個人の自立に基礎を置く民主主義的な社会への熱望がわきおこる。一方、公害の激発による重化学工業中心の大規模開発への批判が始まる。

日本の戦後平和運動も、被害者運動から被害—加害の重

層性の自覚への転化が起こり、国境の外との関係への自覚が生まれる。

一九七〇年代前半（七〇年安保闘争後）、革命を志向する活動家の間に、二つの方向への分岐が生じた。武装闘争を強化し、世界革命の戦士となることをめざす方向と、人民性、民衆性への徹底をめざす方向（下層人民、被差別民衆との連帯を求めていく）。——後者は地域のなかに活動の根拠地をつくろうとした。

しかし、課題そのものが、社会総体の変革＝革命から、より個別具体的になっていったのともなうて、課題別のネットワークへと変化した。社会運動ではウーマンリブ、水俣、三里塚が時代の課題を凝縮した。とくにウーマンリブは、社会思想、社会理論へ根源的な視座転換をうながした。それは闇夜に閃いた閃光であり、革命思想であった。

水俣、三里塚は、公害、地域破壊をもたらす開発を告発する地域に根ざした実力闘争として闘われた。思想的には足尾鉾毒事件と田中正造の思想が顧みられ、全国の火力・原子力発電所建設反対の運動からは、環境権の思想、暗闇の思想（松下竜一）などが生まれた。

一九七九年のスリーマイル島原発事故が引き金になり、

高木仁三郎が反原発運動を牽引した。環境の危機の意識化が進み、エコロジーと環境問題が新しい焦点となった。

一九八〇年代になると、公害輸出、企業移転、資源収奪問題などを通じてアジアとの民衆レベルでの連帯が始まる。宇井純が公害自主講座運動を始める。

一九八六年のチェルノブイリ原発事故で、世界的に反原発運動が盛り上がる。原発立地個所での反対運動の重要性、地域が闘争の前線になる。

一方、一九七五年以降はフェミニズムの花盛りとなる。国連世界女性会議の開催（五年ごと）が女性運動を活気づけ、女性解放の理論と運動の内容と担い手が幅広くなった。例として黒人女性、先住民女性などマイノリティとジェンダーの関係が現れてくる。世界的には家父長制と植民地支配との統一的認識が深まり、民衆運動がジェンダー・イシューに敏感になる。

この流れとも連動しつつ、一九八〇～九〇年は、「地域をひらくシンポジウム」運動の一〇年となる。

札幌から提唱して、主に日本海側の地域の運動の拠点がつながり、住民・市民運動の経験と課題の共有が図られた。札幌、川崎、富山、名古屋、金沢、米子、静岡、熊本など、

各地に一年に一回集まって、その地の運動から学び合い、顔の見える関係をつくった。

原発立地阻止、環境権の制度化、各地のダム反対運動のつながり、愛知の万博反対と内容の改革、長良川流域自治体構想などが議論され、進められた。

一九八四年からアイヌ民族の組織である北海道ウタリ協会が、国連経済社会理事会のなかの人権小委員会付属先住民作業部会に代表を送り、世界先住民民族権利宣言策定作業に参加。世界の先住民民族運動が発展した。

2 現在に至る画期としての一九八九年

一九八九年、天安門事件、ソ連東欧圏の崩壊。ここで二〇世紀は実質的に終わったといえる。

ピープルズプラン二一世紀国際民衆行事開催。「水俣宣言」発表（越境する参加民主主義の権利を宣言）。世界社会との民衆運動レベルでのつながりが発展する。

一九九〇年、「さっぽろ自由学校『遊』」設立（「福岡PP二一自由学校」とともに）。

そして一九九一年、湾岸戦争。（世界の単一自由市場化としてのグローバリゼーション）によって貧富の差が拡大す

る。米国の軍事力による世界一國支配体制、アメリカ帝国の支配という二一世紀初頭の世界像出現。一方、NGO（NPO）という新しい運動体が国際社会に登場し、一定の力を持ち始める。

一九九二年、コロンブスのアメリカ大陸到達から五〇〇年記念を、アメリカ三大大陸（北米・中米・南米）の先住民族が連携して「侵略と抑圧の五〇〇年」として位置づけ、先住民族の権利回復を要求する運動を始める。

九〇年代末からは、グローバルな新しい民衆運動の発展（反WTO・アタック、世界社会フォーラムなど）が生じる。地域通貨、オルタナティブな社会イメージ（農、育児、食、介護などを重視する）の模索、インターネット・ネットワークによる連帯・社会運動が拡大。

国民国家に運命を託さない人と人、地域内の民衆の協同、連帯の在り方についての問題意識が初期的に現れてきた。「人間の安全保障」から「民衆の安全保障」へ、という思想と理論が提唱される。

二〇〇〇年、女性国際戦犯法廷開催。従軍慰安婦という名の戦時性奴隷化をつくり運営した責任を問い、天皇ヒロヒトの有罪を宣告する。これは国際法の国家中心主義を越

える象徴的な営みであった。

3 ネオリベラリズムと新国家主義

二〇〇四年、日本国家が、軍事的な強力国家として国際社会で発言力を強め、「先進」大国による世界の政治・経済の管理支配の仲間入りをめざす方向へ急激に傾く。

ネオリベラリズムと新国家主義とが手を取り合って進む現在のグローバル化は相互互恵関係ではなく、弱肉強食、優勝劣敗を当然のこととした秩序の世界化であり、古典的な市場メカニズムとはまったく異なる。

国家は、強者の自由な行動を保証し、その要求に応えるための強国化をはかる。それがネオナシヨナリズムとして現れてきている。

また、ネオリベラリズムの効率主義は、民主主義的な合意形成と決定の手法を非効率とし、上から下へリーダーシップを発揮しての決定の強制と服従の秩序を良しとし、それを受け入れやすくするために大衆迎合、大衆煽動の政治手法を動員する。

国際関係では、日本政府の未来への構想は不在。行き当たりばったりであるが、今後、北朝鮮関係、台頭する中国

との関係、東アジア地域経済圏問題、外国人労働力の導入などで、大きな変化を強いられるだろう。

4 今後に向かって

最後に、地域に根ざし、文化と政治の変革をめざす「さっぽろ自由学校『遊』」の経験から考察した私見を述べたい。

「さっぽろ自由学校『遊』」は、最初「私が変わる、世界が変わる」という合い言葉で、自分たちの学習の場として設立し運営してきた。現在は、年間を通じてプログラムがつくられ、講座が行われているが、それだけでなく、イラク戦争反対の北海道ピースネットワークをつくり、札幌でのピースウォークの事務局的な役割を演じている。

そのほか、他のNGOとネットワークを組み、自治体行政への提言と改革にも接近し、次第に、学習組織であるだけでなく、下からの社会形成を推進する運動体となりつつある。政治的意味づけでは、国民国家の支配を弱め、そのくびきを脱する方向での地域的ネットワーク、そして国境を越える民際的なネットワークを推し進めようとしている。

反戦反基地のネットワークが国際的に広がりつつあること、アジア平和連合が形成されたこと、世界社会フォーラムが発展していること、イラク反戦の世界同時行動が繰り返されていること、これらは希望の芽であり、地域から積極的に参加し、推進していきたい。

今年の具体的課題では、一昨年の台湾コミュニティ大学との交流を契機として、台湾、香港、韓国などの民衆教育グループとの国際シンポジウムを企画している。また、反戦平和、憲法など当面の政治課題を取り上げる講座やコアメンバーの力量を強化するための「学びⅡ学習」についての実践と理論についての研究会を企画している。

次の時代の担い手が「遊」への参加によって経験を積み、力量をつけることができるためには、それを可能にする経済的な基盤（専従体制の充実）が必要であり、委託事業など行政・企業とのタイアップという問題が出てくる。それに伴い、「遊」としての判断と行動の基準を、経験の反省を通じて生みだすことが大事になっている。

多能的で、多様な課題を担う力量を身につけた人材を生み出すことが、将来の社会変革への基盤づくりになるのではないかと思う。

5 総括のための覚え書き

○社会運動の経験則として、原因と結果が線形に一对一対応で結びつくとは限らない。闘争や運動がいったん敗北して終息したとしても、地域のなかに「既成事実」に屈服しない志を持つ人」が残れば、運動の影響が地下水となつて流れ、時間を隔ててわき水として地表に現れる可能性が蓄積される。経験の蓄積と伝統化。

○地域の民衆運動が持続的に継続するところには、男性中心の指示服従型の組織ではなく、女性が独立した存在として認められ、自由に発言できる雰囲気と、運動者が自分の生き方として生活の場で運動を続けるスタイルがある。自己解放と社会変革との運動。

○在地域の知識人（小・中・高教員、医師、僧侶、牧師など宗教者、自営業者）が、職住一致の条件を利用しつつ、情報の発信と受信を通じて外部の諸組織や運動との連携を図ることが地域運動の活力を更新する。自治体に市民派の議員を生みだすことも力になる。

○運動と結びついた理論のキーポイントとして、地域からと世界からの両面から、国民国家の縛りを脱していく道筋を探ることを重視したい。（鹿児島市 小川みさ子）

新沖縄フォーラム

けーし風 第四三号

特集 戦争と平和を考える〈場〉

特集にあたって（宇根悦子）／八座談会V戦争の記憶を伝え、感性を育む場
（佐喜眞道夫・加代子・真栄城玄徳・榮子・司会・屋嘉比聡）地域史による戦場の追体験と継承（小橋川清弘）／よみがえる写真（比嘉豊光）／沖縄戦、朝鮮人、私たちの現在（安良恵）／ハインツビューV次世代へつなぐ試み（本山つる・昔天間朝作 聞き手・岡本恵徳・仲田晃子・我部聖）／八座談会V「沖縄のいま」を掘りたい（Breath + Columns）聞き手・島山淳／映画「風音」製作ノート（山上徹二郎）国民保護法案と「沖縄戦の教訓」（池原正雄）／戦争をどう伝えるか（宇根悦子）

●シマだより 与那国／石垣／宮古／島尻／那覇／山原／水良部／大島 関西／関東

●北の風・南の風 マスコミの願望とバレスチナー 早尾貴紀／世界一「豊か」な国の貧しい州—安倍陽子／「平和の文化」宮内秋緒／ベトナム人は「色が黒い」のか—那須麻／記憶する—阿部小涼／五月の桜—竹内渉

●沖縄・いま イラク人質事件の報道と世論—目取真俊／老人パワ—あなごるべからず—秋山勝／いま沖縄闘争を闘うことの意味—新崎盛暉／偶感（三八）—岡本恵徳

●沖縄県境ネットワークだより16（内海正三）

●佐喜眞美術館だより（佐喜眞道夫）

●強口冷口（高良勉）

●沖縄この三ヵ月（宇根悦子）

●読者の集い 那覇／関西／関東●編集後記

■定期購読の申込みは、はがきかFAXでお願いします。こちらから郵便振替用紙をお送りしますので、ご希望の方は、年間四号分（二千元）または二年間八号分（四千元）をご送金下さい。
★バック・ナンバーあり。

★発行所

〒九〇二〇〇七五 那覇市国場五二二 ワタリアパート二〇六号

【電話&FAX】（〇九八）八三三—八四八四

E-mail: netwind@atlus.pala.or.jp

が、学びだけは続けております。

(山梨県都留市 清水絹代)

◆イラクの三人が解放されホッとして
います。イラクへの自衛隊派兵反対の
署名活動を一月下旬より毎週月水金、
四月から月金に、駅前で昼三〇分行な
っています。

(静岡市 栗山満子)

◆日本のマスメディアからは世界のニ
ュースが十分入ってこないのので、『あご
ら』を手にしたときにはショックでし
た。しかし、現実には正しく見て、知ら
なければと、友人にプレゼントするこ
とにしました。イラクの人びとのため
に祈ります。

(神奈川県平塚市 宮川はるみ)

◆いつも大変なご苦勞に敬意を表しま
す。お身体に氣をつけて頑張つて下さ
い。(大阪府寝屋川市 鹿井トミエ)

◆『あごら』を送っていたくれたびに、
負けてはいられないと、元氣をいただ

いています。ご自愛の程。

(岡山県岡山市 河田房子)

◆希望をいわせていただければ、理論
的な論文なども、ほしいと思います。

(愛知県名古屋市長 水田珠枝)

*ご示唆ありがとうございます。かね
がねそう感じておりました。「フェミニ
ズム経済学」の原稿を久場娵子さんに
お願いし、執筆のお約束をいただいて
いますので、近いうちに掲載できます。

そのほか、若い方がたも大歓迎！

いろいろな視点からの論文も待望して
います。どしどしお送りください。

ご友人、知人の論文も、ご紹介くだ
さい。(編集部)

「誤魔化されないように」

欠陥住宅についての思い

鉄筋のマンションまで、築一年で雨

漏り騒ぎ。テレビの話題になっていま
す。

私が学んだ大学の建物も雨漏りがし
ていた。権威の象徴のように茶色の煉
瓦造りの建物だったが……。屋上に上
がって見ると、コンクリートがボロボ
ロだったところもあった。素人目にも
セメントと砂の配分率を誤魔化してい
るのでは、と思えた。日本橋の三越の
本店や、その隣の三井の建物では見ら
れない状態です。

私の父は、関東大震災で焼けた家を
再建するとき、コンクリートにしよう
かと考えて、もし、鉄筋にするとした
ら、毎日、現場に行つて、コンクリー
トを流し込むときに竹竿で突っついて、
空洞ができないように手伝うつもりだ
ったと言っていた。

その頃から七、八〇年も経っている
今、空洞だらけの建物を建てて売るな

んで……。決して決して、技術が未熟なためではない。だまして儲けようとしている卑しさが蔓延しているのです。

その場限りの儲けを求める資本主義の悪いところが全面的に出たという以上に、モラルも投げ捨てた末期的現象だと思います。欠陥自動車隠し、外国産の牛肉を国産と偽って補助金をかすめ取ったり……。

あざむく手法のいろいろ

1 数値をペラペラしゃべって煙に巻く方法です。数字を並べると本当らしく思えるし、一般に、自分は数字に弱いと思っているし、数字はウソをつかないような気がするからです。数字そのものが間違っていることには気がつきにくいから……。

2 そもそも、比較ができない物事をくらべて論じています。「愛」と「お金」は、どっちが大切？などと……。

一〇円と一五メートル、どちらが大きいか？と質問するようなもののに。

3 両立し得ない物事を、平気で話すアメリカが、沖縄の軍事基地を「抑止力を、弱めないように保持しつつ、沖縄県人の負担を軽減する」と声明。

他国を踏みにじつていて、軍事基地（世界最大級の）それ自体が、沖縄はもちろん日本全体を苦しめていることなのに……。

4 原子や分子は絶えず動いています。止まっているつもりでも絶えず地球と一緒に動いています。気がつかないだけです。

同じように、考えもつかない大きな誤魔化し（何百億という不正献金やワイロ、国民から集めた年金の不正流用など）は、なかなかバレにくいのです。

（我孫子市 おくだあきら

元都立高校理科教師）

「相変わらずチエチエンと
取り組んでいます」 寺沢潤世

世界の平和と人権、とくに強国のテロによって虐げられている人びとのために、キルギスを拠点に世界の各地で活躍中の寺沢上人。

折々送られてくるお便りは、記事満載のため掲載が遅れに遅れてしまいましたが、まとめてお目にかけます。

チエチエンに対するロシア政府の干渉を拒否したデンマーク

チエチエン紛争が政治的解決への進展を見ないまま、9・11後の国際反テロ戦争という大きな世界政治潮流の中で、チエチエン独立派の指導者をロシア政府が国際指名手配するという法的武器をつかってチエチエンの一層の孤

立化と弱体化が計られています。

その一方で、チエチエン一般市民、難民への人権蹂躪と共同制裁的な軍事支配の締め付けは、いっそう厳しさを増しています。国際社会はそうした潮流の変化の中でロシア側が進めるまよかしの外見的な正常化の宣伝を、額面通りに受け入れ、人権NGOや地元市民の訴えにもかかわらず、国連人権委員会も、この二年連続してロシアを批判するチエチエン人権決議を否決しています。

そうした背景の中で最も先鋭的で意義深い進展の一つは、ロシア政府の強引な横やりで何度もおしつぶされた世界チエチエン会議が、先年暮れ、デンマークのコペンハーゲンで開催されたことです。

これはチエチエン紛争の政治的解決を目指すチエチエン人を中心とする国

際的運動を計画したもので、「武力闘争から非暴力政治運動へ」明確な転換を宣言し、何世紀にもわたるチエチエンとロシアの和解の選択を提言してきました。

ロシア政府はモスクワ劇場襲撃事件を理由に、デンマーク政府に「この世界チエチエン会議はチエチエン・テロリストを助ける集団だ」として中止を要求しましたが、当時、EU議長国であったデンマークは、「集会の自由、政治的発言の自由というEU民主主義の原則に関わる」として、ロシア政府の干渉を拒否し、世界チエチエン会議は実現しました。

この国際会議に出席したチエチエン独立政府の最も高いレベルの代表者が、元副首相、現大統領、ヨーロッパ特使であるザカエフ氏です。

ロシア政府は、モスクワ劇場事件に

関わる重要参考人ならびに種々の重大犯罪(殺人、人質、拷問、公的建物破壊等)被疑者として、ザカエフ氏を国際指名手配し、デンマーク政府に身柄拘束と送還をせまり、一時ザカエフ氏は逮捕されたものの、デンマークの法廷は、証拠不十分として氏を釈放しました。しかし英国に帰った氏は、そこでも国際指名手配下の令状で逮捕され、氏の弁護団側によって公判審議にもちこまれて今日に至っています。

私は九月上旬、後半の五日間の公判における証言尋問と、一〇月二一日の検察側弁護側最終弁論に立ち会い、法廷前で法鼓を撃って御祈念いたしました。

弁護側の論拠は次の三つの柱に要約されます。

一、ロシアに送還すれば、公正な裁判を経ずに、氏に対する拷問、虐待、

暗殺の可能性があること。チエチエン戦争の間、チエチエン人であるというだけで、また、独立を支持するという政治的意見だけを理由に、

不当逮捕、不法連行、拷問、処刑が行われており、軍、秘密情報省、警察、検察、裁判所が、組織的にチエチエン人への人権侵害、戦争犯罪を行い、さらにそれを隠蔽し、メディア、外交操作を行なっていること。

二、氏への逮捕令状の合法性に、きわめて政治的な動機が働いていることが明らかなこと。——第一次戦争期の犯罪性が二〇〇一年に初めて訴えられたなど、時間的に整合性に薄く、証言者の証言の作成の手順に合法性を欠き、軍、検察、情報省が組織ぐるみで拷問を強要した疑いが明らかで、それらの責任者や公的立場にある人びとがザカエフ氏の犯罪がすで

に確定したような公的発言を繰り返していること。

三、ロシア・チエチエン間の紛争の歴史的背景にさかのぼり、ソ連崩壊後のチエチエン独立をめぐる現紛争においては、氏はジュネーブ条約における紛争当事者の一方の、政治・軍事・外交の当事者に該当し、一九九七年、第一次戦争後調停したエルツイン・マスカドフ平和協定の一方の調印の政府を代表し、二〇〇〇年には交渉の正式代表としてモスクワを訪問しており、その時はロシア側も交渉の正式な当事者として待遇していること。殺人罪などの罪状は、第一次戦争の軍事行動中の行為を指し、一般的起訴事項にあてはまらないこと。

以上の要約に明らかなとおり、この裁判の画期的な側面は、ロシア国外の

法廷において、ロシアの軍事行動の正当性、合法性が問われ、ロシア軍の人権侵害、戦争犯罪の側面が尋問の中で露わになり、また、ロシア政治の民主的整備全体が公判の一方に問われ、公的記録としてとどまったことです。

長引いた公判も、来る一三日に判決が下ります。この判決は、今後のロシアと英国ならびにヨーロッパの関係の方向を大きく左右する結果になるかもしれません。また、チエチエン人の将来、大量移民のきっかけの法的根拠となるかもしれません。そして、ロシアの戦争犯罪が国際犯罪法廷へ起訴される法的前例となるかもしれません。

ポスト・ソビエトのロシア一二年の重大な節目となりましょう。その場が英国ロンドンであることもまた、因縁であります。私もその一日のため、三たびロンドンで法鼓を撃つつもりです。

(ダネツクにて 十一月四日 寺沢潤世)

ロシアの不正を裁いたイギリスの法廷

本日十一月三日、ロンドン、ボウストリート的高等裁判所第一法廷において、ポスト・ソビエト一二年間の最大の悲劇であるチェチェン戦争に画期的な法的判断が示されました。長期にわたったこの公判闘争は、ロシア側が国際指名手配したチェチェン・リーダーの一人ザカエフ氏の身柄送還をめぐるものでしたが、かえってロシアが今日まで行なってきたチェチェン戦争全体と今日のロシアのありようが法の審判にさらされることになりました。

ほぼ時間どおり開廷された法廷は、ジャーナリスト、傍聴者、三〇人ほどで満員になるほどのさやかな場所ですが、ロシア政府側の姿は、ほとんど

ありません。

裁判長が用意した判決文を淡々と読み上げていく言葉を聴きながら、あめしくも誇らかなチェチェンの魂が傷つき苛まれ打ち捨てられていった流れが脳裏を走りました。国際社会も欧米政府もあえて見据えようとしなかった二一世紀の恥ずべき虚偽と欺瞞に、いま初めて公正な法の光があてられたのです。それは間接的に、ロシアのチェチェン戦争政策の醜さを浮き彫りにしてゆくものでした。

裁判長は静かにおだやかな声で、ロシアが挙げた身柄拘束と強制送還、ロシアにおけるザカエフ氏の裁判の訴え、ザカエフ氏への罪状すべてを却下することを言い渡しました。

ささやかながらもこれは、ポスト冷戦の世界の、危険なりアルポリティークの世界戦略の流れを逆転しうる重大

な一瞬となりました。チェチェンの一般市民にとってこの判決は、巨大なガリアテの怪物に立ち向かう法的武器がはじめて与えられたことになります。市民的不服従と非暴力闘争への確固たる地平が拓かれました。

英国の司法の独立と、対照的なロシアの独裁的な権力者だけの虚偽にみちた「正義」とが、これほどはつきりと示されたことはありませんでした。

英国は私の二〇代後半と三〇代のすべてを捧げた開教の地でした。それは御師匠様最晩年の生涯をかざる舞台となりました。その舞台、チームズ河畔バタシー公園に建つ御仏舎利塔に、夕刻お礼参りました。

晩秋のプラタナスの枯葉が宝塔と宝土に舞い落ち、夕闇のなかに心地よい香りを放つなか、美しい塔のまわりを太鼓を撃つてめぐりました。塔の厳か

な静寂につつまれ、御師匠様の今生最後のお言葉をかみしめていました。

「イギリスに私は来ます。ロンドンでまた会いましょう」

二一世紀の人類最終戦争にいたるかも知れぬ今日の危機のなかで、一条の光がロンドンの法廷でさし始めました。そのきつかけが、ロンドンから始まるうとしています。

※

二度にわたる暴虐きわまりないチエチエン戦争で多くの人がびとがチエチエンの地を逃れました。グルジアに逃れた避難民たちは、国際機関、政府、秘密機関などの不正と立ち向かい、長期断食抗議などを過去一年間たいたいづけましたが、追いつめられぎりぎりのところで家族ぐるみ身ひとつでウクライナを経由し、深夜国境を突破し、スロバキアからオーストリアへ集団逃

亡を始めています。バスボートも身分証明書もなくなった親子、女子どもが、冬の夜の道なき道を走って国境を越えて逃れていきます。彼らが当然受けるべき法的保護も国際的保護も、幾年にもわたり、存在していません。さらに数百家族がこのエクソドスへと待機しています。

私はこの家族たちが、欧州の人権活動家、報道機関、法律家、政治家たちの協力を得て、白昼堂々と集団亡命の直接行動を準備すべきだと考えます。

今日のロンドンの判決は、その法的根拠になりうると考えます。彼らにはロシアへ強制的に追い返されることを拒否する権利があります。

※

チエチエンに関わるもうひとつの新しい出来事は、現在、ウクライナの日本山妙法寺の道場に四名のチエチエン

の若者が共に修行し、生活していることとです。

チエチエンを逃れイングリッシュで難民生活を余儀なくされた彼らは、チエチエン第一次戦争で、私たちが「母親の行進」を組織してモスクワからグロズヌイ入りした一九九五年当時、まだ十二、三歳の子どもでした。戦争以来、彼らにはまともな学校生活もなく、正規の教育を受けることができずに育ちました。

法華経修行の道場で、彼らは一日五回の礼拝を守り、ラマダンの断食をつとめ、朝三時半に起床して朝一番の礼拝の後、日の明ける前、食事をとります。そして日本山の朝と晩の二時間の修行に同席します。また、道場生活のつとめとして、水くみ、まき割り、庭の掃除、ベチカの火番などに従事し、一日一時間ガンディの非暴力に関わる

本や仏教の教えについて勉強します。

私は彼らをつれて十二月初め一週間の日本山の断食修行を、中央アジア、キルギスタンの天山道場でつとめ、十日頃にインドにわたり、正月いっぱいインドを巡ることになっています。

彼らはチエチエン民族存亡の危機を救うために、ガンディの非暴力、日本山の立正安国の世界運動を自ら学び、体験し、さらに世界各地の戦争を解決し、平和樹立を可能とする真の宗教の和解と協力の道を歩む志を共にしています。

私はインドに彼らを留め、三月上旬までに、ロシア、モンゴル、中国の仏教徒と政府に、北朝鮮への東アジア仏教合同平和イニシヤティブを呼びかけ、理解と支持をとりつけた上で北朝鮮入りを果たし、計画を協議し、明年春に日本にチエチエンの若者をふくめ十五名のお弟子たちを招くつもりです。

聖徳太子の十七条憲法制定一四〇〇

年にあたる日本仏教の東アジア平和建設の誓願として、鑑真和尚上招来のお仏舍利をいただき、韓国、中国を巡り、北朝鮮金剛山に全極東アジア仏教の不戦と和解の祈りを表す仏舍利塔建立の運動を起こします。

チエチエンの若者の日本ビザ取得のため、また、ロシア、ウクライナ、中央アジアの日本山徒弟の日本ビザのため、チエチエン関係の市民団体や法華経仏教国際交流会から招待状を年内にいただくなければなりません。三か月のビザを申請すると同時に、中国、韓国のビザ申請もする必要があります。

北朝鮮の核危機をめぐる複雑な諸問題を平和的に解決する本質的な大前提には、アジア近代の対外世界戦略に翻弄されたアジヤの民衆の間に真の和解と信頼と協力の精神的文化的な

運動が必須であります。

仏教三宝のアジヤ仏教文明は、今こそ万国の平和共生の極宗として、その真価が問われています。

今日まで不思議と御師匠様のお志を世界に伝えてゆく道筋をたどることができました。現代の奇跡でありましょう。貧道無学の身のままだに、如来神力品の無量の神力を現代に示す所以でありましょう。宿世の善根を真に喜ぶものであります。

(ロンドンにて 一一月二三日 寺沢潤世)

第一次東アジア仏教合同平和使節団を立ち上げます

いよいよ師走も近づきました。

本年も正月以来、近年にない激動のうちに過ぎゆき、それとともに私もほとんど留まることない旅の日々のうち

に過ごしてしまいました。

世界波乱の渦中に、立正安国、平和浄土建立の大道を見出さんとする一心の外ではありません。特にイラク戦争

に並行する東アジア朝鮮半島の核危機を転じて、東アジア民衆の和解、平和樹立への新しい協調づくりに資するよう、東アジア一五〇〇年の仏教文明の平和の文化を共通基盤とする東アジア六か国合同仏教平和イニシヤチブの具体化を考え、準備してきました。

その第一歩として、東アジア六か国の仏教徒による不戦、非核、恒久平和の誓願を表し、アジア近代の植民地戦争、大戦、朝鮮戦争、冷戦におよぶ分断、戦争の歴史を乗り越え、新しい真の和解と相互礼拝の平和の文化樹立のため、北朝鮮金剛山に東アジア六か国仏教の共同事業として仏舍利塔を建立することを提唱し、明年正月九日（恩

師御命日）を期し、ジュネーブ国連軍縮会議本部において第一次東アジア仏教合同平和使節団の発足式を行う予定です。

この第一次平和使節団は、一九八八年、第三次国連軍縮特別総会に献ぜられた唐招提寺秘蔵の鑑真和尚が日本に招待されたお仏舍利様を報じて、キエフ、モスクワ、カルミック仏教共和国、ビシケク、アルマアター、アルタイ自治共和国、ブリヤート仏教共和国、モンゴルを経て中国入りし、北京より北朝鮮に入る計画です。

第一次使節団の目的とするところは、各国仏教徒と共に、東アジア平和確立の平和祈願法要を修め、この共同平和イニシヤチブへの理解と賛同を得、共

同で北朝鮮指導者と仏教指導者に、新しい二一世紀の民間平和外交、紛争平和解決のひとつとして提案、交渉にの

ぞむことであります。

時間的には一月十五日ごろモスクワ、一月二十五ごろ中央アジア、二月初週ブリヤート、モンゴル、二月一日ごろ中国、二月二十五ごろ北朝鮮と考えています。

今年夏以来、ソウル、ジュネーブ、ニューヨークにおいて、このイニシヤチブの国際的な支持への枠組みは形づくられてきました。北朝鮮とはジュネーブの国連代表部を通して話し合いが前向きに始まっています。まずロシア、モンゴル、中央アジアのコーリア仏教徒の支持の上に、中国仏教界の強い後押しが必要となります。この第一次平和使節団の中国入りを前もって十分に準備することが大切です。

今のところ中国語、コーリア語の通訳を同伴する十名の使節団を予定し、別してリストをお送りします。正式な

中国仏教協会の招待の上に全員のビザをウランバートルの中国大使館で取得できればいよいよ好都合です。一月五日前に準備できれば、モスクワ出発前にモスクワで取得することも可能かもしれないません。

一方、北朝鮮における使命達成後、引き続き第一次使節団は韓国を経て三月の彼岸前に日本に到着し、四月、五月と、第二次東アジア合同仏教イニシヤティブとして日本各地を行脚する計画です。日本仏教各本山の賛同協賛をいただかねばなりません。

明年は、聖徳太子の十七条憲法制定一四〇〇年に当たり、太子と深い精神的契りを結ばれた高句麗の慧思法師の法縁をたどり、朝鮮半島、東アジアに、万国の平和の極宗を、再び二一世紀に高懸したいと念願します。

いよいよ本年の臘八接心を、新しく

求めたウクライナ東北にあたるルガンスク郊外のご草庵でつとめた後、行動に入ります。古くゆるやかに流れるドネツ河が、見わたすかぎりつづく大自然の中をうねる河畔に好地を得ました。小高い石灰岩の丘のふもとで、庭はただ限らない森林の静寂につつまれます。

一九八八年の時のような、仏舍利協賛会が日本で結成されるようになればよいのですが、そのような実行委員会ができないでしょうか、と考えます。

(ウクライナ・キエフにて

一月二五日 寺沢潤世)

亡父回向の御慈悲

長かった中央アジア天山山脈の中の、深い龍山から出て、東アジアに向けたユーラシア横断の巡行に再出発い

たしました。一行の中国入国ビザ取得がおくれにおくれたことも一因ではありましたが、亡父への追考回向のための、かけがえのない五七日間の修行期間でした。

この雪に包まれた天山山中における静かな深思惟の日々がなかったなら、あるいはこれからさらに引きつづくであろう困難なユーラシア通一仏土の行脚を続けることはできなかったかもしれません。

本年正月、今生最期の父との別れとなつた帰国以後、欧州からの平和巡行を始めるにあたり、まずウクライナ空港入国手続きで、私の入国が拒否され、来たKLM便でそのまま強制送還となりました。

これは、ロシア政府の私の特別名リストのファイルが、他のCIS諸国に共有されたことを実証しました。そこ

で、ロシア、ウクライナの平和巡行のグループと共に陸路中国入りを計画しましたが、途上カザフスタン国境での入管手つづぎでのコンピューターでもひっかかり、アスターナ中央政府との問い合わせでも入国拒否の指示が出て、やむなく私一人引き返し、空路中国入りするほかなかったことで、ロシア政府から徹底的にマークされていることは確実となりました。

ソ連消滅という二〇世紀の希有なる非暴力革命の引き金となった欧州非暴力運動を起こし、その激動の初めからあらゆる場面で立正安国の祈念をつづけて来た唯一人の出家僧だけを名指しで追放することこそ、面白き法戦の展開であります。二一世紀の全ユーラシアの危機的状況を見る時、これは起こるべくして起こった如説修行の一場面でありましょう。「如来の現存すらなほ

怨嫉多し、いはんや滅度の後をや」の經文の一部を今日色説することになりました。

正に一切諸法空の如来の座に座し、寂滅忍の如来の衣を着し、慈悲無量心の如来の室に入るべき時であります。

ユーラシア横断平和巡行の欧州出発は、しかしながら前途多難にもかかわらず、予定どおり、ロンドン宝塔を起点とし、北ロンドン、ハイゲート墓地のカールマルクスの墓、ブリュッセルのE.U本部訪問、ジュネーブ国連軍縮会議、東アジア六か国国連代表部訪問、ヨルダンのハッサン皇太子との会見等を予定通り行うことができました。

特に深く心うたれたのは、この困難な巡行のはじまりに、北ロンドン、フインチェリーにある日蓮宗道場にイタリア僧のタラビニ上人を訪ねた折り、上人が深く私たちの前途を折って、貴

重なる高祖大聖人様の座像を託して下さったことです。私にとつて、それは、どれほど力強い励ましとなったことでしょう。

欧州巡行のしめくくりとして、私たちはポーランドのチエチエン難民をたずね、さらに昨年暮れ、ウクライナから不法逃亡したチエチエン難民家族に会うためスロバキア国境の山奥の難民収容所を訪れました。夜中、しんしんと雪の降りつづく雪道を歩きつづけた。道中、しみじみと子供の折りの羽咋の夜の雪の道や、チエチエンを初めて訪れたきつかけとなった、雪の山中のルースランの葬儀のありさまが思い出されました。

その夜、この世の世界とも思われぬ新雪の降りつづく不思議なほどの静寂につつまれ、眠れぬ夜を明かしました。

夜明けと共に全山中の松の樹々が白

雪にかがやく前に、奉持するお仏舎利と高祖大聖人のお座像をおまつりして御祈念いたしました。それは父が最後の息を静かにひきとった時刻でした。

ニューヨークの弟から知らせが入ったのは二月二四日の夜、スロバキアからポーランドのワルシャワに向かう雪中の夜行列車の道中でした。二月二五日、ワルシャワの仮りの宿のアパートの一室で、暗れわたる夜明けの日の出を拝みつつ慈父追悼の法要をつとめました。この日は行阿院様のお命日にして、これから向かう北朝鮮核問題の六か国協議の第二次会談が北京で始まった日であります。

ああ、私にとって父子今生永遠の別れの悲哀は、父一代の求道の完成にして、大円寂に帰す父の生死一大事因縁血脈相承の嚴肅なる一瞬でありました。末代凡夫身の父の帰寂は、その子にと

つて久遠の本仏常住不滅の塔中相承の無作の慈悲のふるまいの外ではありませんでした。末法の法華經受持とは、娑婆即寂光淨土の如来神力品の結要付嘱の儀式をそのまま今日相承することであります。我が色心が求めざるに自ら与えられた無量の宝珠とは、一切の法界の生死一大事の依正の当体そのものにして、父の帰寂はそれを残された無所有の父の無言の大説法でありました。

かつて核戦争寸前にあつた冷戦下の欧州開教時、ミルトンケインズの宝塔前に我が指を焼いて奇跡的な困難を乗りこえて、一人ポーランドをベルリンの壁まで行脚しました。それは恩師聖人の一代最後の大仏事大ロンドン宝塔湧現の序分となり、ベルリンの壁崩壊、冷戦終結、ソ連消滅が、起後の欧州に現前しました。

今また、大難重々する長途の東アジア通一仏土の行脚の途上、父の生死一大事の時をポーランドで迎えました。父の法要後、如来のつかわれた変化の人が現われました。北朝鮮核危機の大難を転じて東アジア永久不戦の大善とする北朝鮮金剛山宝塔湧現の突破口を開く人となるかもしれません。後世の歴史に待たねばなりません。

ポーランドよりまっすぐキルギスの天山道場に参籠、初七日から四七日にわたり、一心に父の回向を修めました。春彼岸の御中日に、天山山脈を見わたす丘の上に、慈父追孝謝恩の卒塔婆を建てました。ロシア、ウクライナ、チェチェンの東アジア巡行の一行が、天山道場に到着しました。

いよいよ一同出発の朝、数日降りつづいた雪が晴れ、父の卒塔婆に参りました。純白の晴れかがやく天山山脈、

宝樹の銀世界の十方浄土の風光を拝み
ました。

三〇日、慈父の五七日の日、私は空
路中国入りを果たし、残りの一行は陸
路中国に入国できました。

ポーランドにおいて、また中国に着
いた夜、御師匠様を夢にみました。ど
んな危険な中でも、どんな失敗の中
にあっても、ずっと御師匠様がお側で交
わらぬお心でつきそって下さいました。

不徳不肖の身でありながら、我が受
くべき大難を、実は仏様、本化の四菩
薩、お祖師様、お師匠様、亡き慈父が、
代わって身に受けておられるとしか思
われません。

一行九名は明日四月二日、ウルムチ
から西安に向かい、アシヨーカ王が送
られたと伝えられる、法門寺の如来の
指骨舍利を拝み、羅什三蔵の法華訳経
の道場草堂寺に参詣し、四月七日北京

入ります。

中国仏教協会と最初の協議に入り、
鑑真和尚招来のお仏舍利を祭つて合同
法要を修め、四月十一日、天津より韓国
の仁川に海路入港します。韓国仏教は
まさにこの東アジア仏教合同平和計画
の誓願を我が事として本当に喜んでい
ます。

このあと、日本へ向けて四月一八日
釜山出航、海路下関または博多に到着
後、佐賀の宝塔、花岡山、誕生寺、別
府に参詣、四月二六日には、一行八名
清澄山に入山、多摩の法要後、熱海身
延富士に参詣、関西方面は歸路の六月
初旬になる予定です。

帰国寸前でまことにおそれいます
が、以上の計画は中国入国が可能にな
つてにわかに現実化した事情をお察し
下さりご容赦ねがう次第です。

(ウルムチにて 寺沢潤世)

東京平和映画祭を支える方に ビデオをプレゼント

テレビや映画館では観られない話題
のドキュメンタリー六本を一挙公開！
七月一七日(土) 九時半～二二時、東
京代々木のオリンピック記念青少年総
合センターカルチャーで(上映時間は
六三ページに掲載)。

ランチタイムには各監督(海南友子
・鎌仲ひとみ・川崎けい子・中津義人
・高岩仁さんほか)との食事をも。(申込
みは yui@chiba.ac.jp 松下さんまで)

●一口一万円でチケットサポーターに
一口一万円を(チケットサポーター
として振替〇〇一四一七―六四八
〇九九 東京映画祭に振込んだ方には、
チケット(一日通しで三〇〇〇円。前売
りは二五〇〇円。全席自由)四枚と
『テロリストは誰?』(フランクドリル

編集・日本語版きくちゆみ)の英語版オ
リジナルをプレゼントします。

【編集後記】

◆小泉政権の支持率って、どうしてあ
んなに高いのかな? どんな人が支持
しているのかな? フシギ……。 (Y)

◆どこの企業でも、戦前・戦中に生ま
れた人が、ゼロになったそうです。誰
も(戦争)のことを知らない——。だ
から小泉人気は続く……。 (K)

◆この号には、一九二〇年代生まれの
方が三人も書いてくださいました。父
上や兄上を戦争で喪った方も……。

京大を優秀な成績で卒え、学者とし
て嘱望された兄上が亡くなられたあと、
母上は生涯、ついに立ち直ることがで
きなかつた、という話も、うかがいま
した。(戦争)とは何だったのか、もつと
もつと語り継がないでいかなければ……

と思います。勿論加害も含めて。(R)

◆投票に行こう。いまなら間に合うよ！
憲法を説もう。

いまなら間に合うよ！

この国の崩落を

私たちの一票で止めよう。

いまなら間に合うよ！

◆小波が寄せうねりとなる

(絶望)から(希望)へと

一票で一步前進！

【294号お詫びと訂正】

●四八ページから五二ページの、世界

平和アピール七人委員会の二つのアピ

ール、八人のお名前を入れましたが、

小沼通二事務局長から、「二つのアピ

ールは、平山郁夫委員を除く六名の委員

と事務局長の名前で出したものです。

平山委員は国立学校法人東京藝術大学

学長として求められている政治的中立

性を考慮して、参加しておりません。」

というご指摘がありました。四九ペー
ジと五二ページの平山郁夫委員のお名
前は削除してください。

●三九ページ上段の最初の二行は、三
八ページ上段の最後の二行と重複して
いました。削除してください。

●三九ページの文末に「ら願っており
ました。人質の苦境に対する否定的な
反応は、どれも非常に遺憾なことであ
りました。」を追加してください。

以上三件、心からお詫びし、訂正し
ます。

【295号の編集協力者】

天野尚美／内田文子／内田大介／

荻原有希／奥平せい子／黒澤照代

桑原ちえ子／古賀節子／斎藤千代

斎藤 涼／佐々木康子／澤田和子

中島克子／家後厚子／綿津靖子

目次で振り返る『あゝ』三〇年

(一九九五年十一月〜一九九五年四月)

二〇一〇号 一九九五年二月 頁883

〈九州〉女の自己主張・この10年

巻頭言 ビッグアップル エキスプレス 古川 澄子

女たちの自己主張のゆくえ・この10年

はじめに—女たちの自己主張のゆくえ・この一〇年 石本 宗子

「職場」における自己主張——均等法時代、そして彼女はリ

タイアした” 石原 豊

子

「性」の自己主張——する、しないは私の自由 池田 保子

「夫婦別姓」の自己主張—別姓だつてよからうもん 石本 宗子

「男の自立」をめぐる自己主張—いい男、家事と育児を両立し

辻 和子

「母親」の自己主張—お母さんも好きにしたい— 三好久美子

「嫁」「姑」の自己主張—されど姑(はは)は強し!

桜江美央子

「介護」をめぐる自己主張——したくない、されたくない

甲木 京子

集会から 北京会議へ向けて／東アジア女性フォーラムほか

TOPICS 〈市民活動を支える制度を作る会〉が発足ほか

めじや—なりすとのめ 主夫の先輩がやめた理由 三好 典子

気になる英語 エキスプロイテンション 奥川 睦

あこらめいと 別姓を続けるマルチタレント 平岡靖治さん

小島サカエ

意見／異見 『婚姻・離婚制度に関する民法改正要綱試案』に

金住 典子

ついて 連載 ベル—の女は立ち上がった(VI)

第三章 フェミニズムの芽生え(1)

キャロル・アンドレアス 訳サンディサカモト

連載 女ひとりどけち旅2 上海

辻 みゆき

連載 看護婦・光と影 川嶋哲子さん(4) 増田れい子

あこら読書室 穂積純『蘇る魂』 日本女性放送者懇談会偏

『放送ウーマンの70年』谷口美季『探る気あるの? 女子大生'94

「内定」獲得マニユアル』シンシア・イーグル、ラセツト著

・上野直子訳・富山太佳夫解題『女性を捏造した男たち』西野

信綱『源氏物語を読むために』

あこらのあこら

二〇二号 一九九四年二月 ￥2575

〈特集〉新聞切り抜きに見る女の十六年 V
女性と参院選 1977

年表 一九七七年の主な出来事

新聞切り抜きから

法・制度・裁判 政治・行政 労働 教育 保育・子育て
からだ 差別 活動 風潮 調査・報告 意見 相談人 本
事件 海外

資料

- I 看護職員の雇用、労働条件および、生活状態に関する条約（IIO第二四九号条約）
- II 看護職員の雇用、労働条件および、生活状態に関する勸告（IIO第二五七号勸告）
- III 五二年度 国の婦人関係予算

二〇三号 一九九五年一月 ￥883

〈鳥取〉“北京”が鳥取に翔んできた

巻頭言

鳥取に中国の三女士を迎えて

中国の女性を鳥取に招いて

北京女性会議・ブレ会議に参加して

シンポジウム「北京会議への道」に参加して

興奮しつつ 混乱しつつ

「日中友好」を説いた議員さんを落とされた私たち

ぐんと近づいた北京

「女の思想」を持った中国の女性たち

“大陸の心”に感動

人と人のつながりの大切さを知る

政治家を尊敬する中国人に感銘

“中国の三女性”のお伴をして

意見／異見 捨て場のない核のゴミ

めじやーなりすとのめ “お嬢さん”という言葉

気になる英語 オールタナティブ

あこらめいと “風”を生む人 芦谷美鈴さん

連載 ベルーの女は立ち上がった（Ⅷ）

第三章 フェミニズムの芽生え（2）

キャロル・アンドレアス 訳サンディサカモト

連載 女ひとりどけち旅3

辻 みゆき

芦谷 美鈴

石井ふき子

門脇 邦子

加藤 洋子

大畑ひとみ

原 克子

坂出 節子

岸本こづえ

辻 照子

横田 正光

斎藤 千代

土井 淑平

広野 彩子

奥川 睦

前田 享子

連載 看護婦・光と影20 後藤登茂子さん(1) 増田れい子

あこら読書室 市川ひろこ『ふりむけば……はつらつひろこの
かれ足日記』竹村茂登子『よい子』があぶない薬物中毒になっ
た若者の生活と異見』

TOPICS 「介護法」要綱まとまる ほか

NEWSLETTER 第四回世界会議 第三号

女たちから女たちへ 年賀メッセージ

二〇四号 一九九五年二月 ¥883

〈新宿〉95 北京会議へ向けてⅢ

変わる流れ、変わるキーワード

巻頭言 今こそ「有事」の意味を問おう

連続講座 北京会議への道Ⅲ

変わる流れ、変わるキーワード

Q & A 北京会議参加をめぐるって

めじやーなりすとのめ 女性アナウンサーの「常識」 山根 基世
気になる英語 カウンター 奥川 陸

連載 ペルーの女は立ち上がった(IX)

第四章 農業改革と村の女・山の女(1)

キャロル・アンドレアス 訳サンディ・サカモト

連載 女ひとりどけち旅4

連載 看護婦・光と影21 後藤登茂子さん(2) 増田れい子

阪神大震災カンパのお願い

TOPICS 大震災で緊急対応 神戸YMCA大奮闘 石井

ふき子さんと(スクールすばる)／日本女性放送者懇談会が創

立二五年に／白頭山写真展

女たちから女たちへ '95年のメッセージと年賀状から

あこらのあこら

二〇五号 一九九五年三月 ¥957

〈大阪〉女たちは動いた―阪神大震災

巻頭言 阪神大震災と日中両国

足もとから揺れた

危機管理の第一歩は危機を危機と確認すること

阪神大震災を身近で体験して

これからが大変! 損保業務

ボランティア活動に参加して

姿の見えない被災者―アジアの女たちに思いを馳せて

山際美代子 山田 和枝 澤田 和子 吉田 悠子

サンディ・サカモト

辻 みゆき

車はつぶれましたが
人のやさしさが見えるようになりました

我が家は無事でした

生きることの原点を振り返りました

女たちは立ち上がった

地震と草の根ネットワーク

やりたいことがほんとうにできるネットワーク

ほんとうの援助とは

現地に急行して

現地から望むこと

被災状況緊急FAX

被災の町に立つて

阪神大震災と女性記者

AGORAZEIN 阪神大震災とわたし

桑原ちる子・黒岩佐和子・斎藤千代・しまようこ・竹崎周子

・田村伴子・寺崎しげ代・山本真美子

TOPICS 労組のない女性の団結を！〈女性ユニオン東

京〉結成／〈アジアの女たちの会〉がシンポジウム／〈ペー

スおおさか〉が戦後五〇周年記念事業

めじやーなりすとのめ 阪神大震災と女性記者

あこらめいと アンデスのフェミニズムに燃える

駒尺 喜美

西田冬至子

藤原美和子

高木由利子

高橋ますみ

岡田 芳子

菅谷 美鈴

城内 治美

堀越由美子

斎藤 千代

竹村登茂子

卷頭言

草の根の文化交流がもたらすもの

私たちの国際交流―ドイツで開いた手工業展

豆を煮ながら―女の手仕事の歴史的考察

地球規模で自分を見つめる

日本女性による第一回手工芸展示会

母の夢が実現したとき

日本女性による日本女性のための大規模な宣伝

友の鞆の中に

ドイツの旅・心の旅

転勤前の計画実行

サンディ サカモトさん

連載 看護婦・光と影22 後藤登茂子さん(3) 増田れい子

連載 ベルーの女は立ち上がった(X)

第四章 農業改革と村の女・山の女 (2)

キャロル・アンドレアス 訳サンディ サカモト

あこらのあこら

二〇六号 一九九五年四月 ￥1177

〈東海〉私たちの国際交流―ドイツで開いた手工業展

下村美恵子

門 玲子

篠崎 典子

アルブレヒト由子

ザビーネ友子・アルブレヒト

ヴォルフガング・アルブレヒト

柳沢つや子

馬場 邦子

西川けい子

ドイツの家庭に日本の女性を迎えて

ウド・シエンク

めじゃーなりすとのめ 男の目・女の目

重村 好美

ウド・シエンクさん宅へ、そしてドイツの一コマ

戸田 順子

気になる英語 ダブル・スタンダード

奥川 睦

カメラのアングルを通して

溝口比紗子

あこらめいと 女性の自立を求め続ける 柳沢つや子さん

親日家の私から

ペーター・ヤノハ

篠崎 典子

はるかたり 日本

辻 みゆき

連載 ベルーの女は立ち上がった(11)

四人の女性を招待して

ディンゲルダイン夫妻

第四章 農業改革と村の女・山の女 (3)

日本からのお客様

ハートムート・ノイマン

連載 女ひとりどけち旅5 キャロル・アンドレアス 訳サンディサカモト

ドイツ手工芸展のこと そしてプロヴァンスに立ち寄って

連載 女ひとりどけち旅5

辻 みゆき

ブレ・ドイツ展からドイツ手工芸展へ

山本 春美

連載 看護婦・光と影23 萩原利津子さん(1) 増田れい子

展示会初日

河村 直子

TOPICS 続柄はすべて「子」に統一／差別記載は遺憾、住友票統柄裁判実質勝訴・最高裁へ／主婦の動きで「阪神大震

作品がドイツで売れた！

久野 久代

災休演コンサート」／ひとりで泣き寝入りしないで！ 女性の

旅日記

河村富代子

労働支援センター仙台でも発足／「パート貸金差別裁判を支える会」がパート問題をテーマに「学習交流会」／「学生女性問題

親愛なる日本の皆様へ

クラウス・ブース

週間は「姓にとらわれず、いきいきと暮らせる時代を築こう」

やってしまったドイツ展——夢と夢をつなぎつづけて

吉川富士子

／5・3にマリオンで大集会

高橋ますみ

集会から 都知事候補に政策と基本姿勢を聞く 女性が連帯し

’95統一地方選——私は、立ちます！ 応援します！

大河みとこさん(奥平せい子) 山本ひとみさん(綿津靖子) 中

てODAの監視を！ 零細企業の女性に光(女性ユニオン東

山やす子さん(高橋ますみ) 寺尾恵子さん(小谷訓子・中尾敦

京) 結集集会

子) 前原雅美さん・横田悦子さん(市場恵子) 豊島みちさん・

あこらのあこら

阿部悦子さん(奥川睦・大早直美) 藤田一枝さん(三好久美子)

〈あごろ〉は、人と人が出会うつひろば――

思い悩んだとき、もつと豊かに生きたいとき、流れを変えたいとき……
心おきなく話し合える仲間がいる。――そんなひろばが、北海道から沖縄
まで、いつのまにか広がりました。

雑誌『あごろ』を軸に、よりよい自分と社会を目指す ゆるやかな連帯。
どの部門にも「長」は置かず、自分を変え、社会を変える――
「病床からでも参加できる運動」が、モットーです。

会費は月刊『あごろ』の誌代込みで月額七百円。一年前払いが原則ですが、
ご相談に応じます。入会金は二千円。ハガキ・FAX・メール・電話を頂け
れば、申し込みカードをお送りします。

〈BOC〉のご登録も、どうぞ……

一九六〇年に生まれた〈BOCバンク・オブ・クリエイティビティ〉は、
〈創造力の銀行〉。あなたの創造力や特技、希望の報酬をご登録ください。
各国語翻訳・通訳・企画・調査・取材・編集・校正等の専門職のほか、どんな
〈創造力〉でも歓迎！ただし、半年以上〈あごろ〉会員の方に限ります。

連絡先

〒160-0022 東京都新宿区一―九―四 中公ビル

電話 03・3354・3941 (代) FAX 03・3354・9014

Eメール XLV05467@nifty.com 又は boc@mb.infoweb.ne.jp

ホームページ <http://homepage2.nifty.com/agorai/>

あごろ 295号(6月号) 私の一票で 戦争を止める！

●編集 あごろ新宿

●発行 2004年6月20日

●発行所 BOC出版部 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-9-4 中公ビル

●TEL 03-3354-3941(代) ●FAX 03-3354-9014 ●E-mail XLV05467@nifty.com

●定価 本体1000円＋税 ●振替 00100-0-5264 BOC あごろ編集部



9784893061430



1920036010004

ISBN4-89306-143-7

C0036 ¥1000E

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

定価 本体1,000円＋税

近 刊

予約申込みの方には2割引き

大田昌秀 平和憲法が死ねば平和日本も死ぬ

日本の平和憲法の意味が、沖縄からは、ひときわよく見える。

薩摩藩時代からの「琉球」の歴史にさかのぼり、「沖縄の自治」を厳密に立証した名著。「平和憲法」を「沖縄」を考える必読の書。 三八〇〇円

下光軍二 法律はあなたの結婚を守る

日本国憲法も、多くの国際法も、男女同権を定めている。結婚と離婚の法律を知っておくことは、幸福な家庭生活の条件だろう。

五十年間、「女性のための弁護士」として、女性の相談相手続けた筆者の、
実例に裏打ちされた懇切な解説書。

二〇〇〇円

企画・編集・翻訳…

何でもご相談ください

創業1960年 —
女性専門職集団
BOC

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

☎03-3354・3941 FAX3354・9014

E-mail XLV05467@nifty.com

各種プランニング

各種調査

取材・撮影・編集

校正・デザイン・レイアウト

各国語翻訳その他

男女共同参画の

BOCシニアも

スタートしました。

ベテランの知恵と経験をお役立てください。

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

TEL 03-3354-3941 FAX 03-3354-9014

E-mail XLV05467@nifty.com

サイレントマイノリティのBOC出版部